

平成18年12月13日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜
1番 上田雄一
3番 山口裕子
5番 大河内 智
7番 古川盛義
9番 山口良広
11番 山崎鉄好
13番 前田法弘
15番 石橋敏伸
17番 小池一哉
19番 山口昌宏
21番 吉原武藤
23番 江原一雄
27番 高木佐一郎
29番 黒岩幸生

副議長 牟田勝浩
2番 浦 泰孝
4番 松尾陽輔
6番 宮本栄八
8番 上野淑子
10番 吉川里已
12番 末藤正幸
14番 小柳義和
16番 樋渡博徳
18番 大渡幸雄
20番 松尾初秋
22番 平野邦夫
26番 川原千秋
28番 富永起雄
30番 谷口攝久

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長 緒方正義
次長兼総務係長 黒川和広
議事係長 松尾和久
議事係員 森 正文

4 . 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	古	賀		滋
副	市	長	大	田	芳	洋
教	育	長	庭	木	信	昌
総	務	部	大	庭	健	三
企	画	部	前	田	敏	美
市	民	環	境	部	勝	行
福	祉	保	健	部	正	敏
経	済	部	長	松	茂	樹
建	設	部	長	大	隆	淳
山	内	支	所	田	裕	志
北	方	支	所	未	隆	裕
教	育	部	長	古	堯	示
水	道	部	長	伊	元	康
市	民	病	院	事	甚	藏
総	務	課	長	木	雅	章
財	政	課	長	古	基	治
企	画	課	長	森	正	博
			宮	下		

議 事 日 程

第 4 号

12月13日（水）10時開議

日程第 1 市政事務に対する一般質問

平成18年12月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
11	19 山 口 昌 宏	1. 保養村の今後の在り方について 温泉ハイツをふくむ公共施設民営化が進む中での今後は保養村での一日中の活用はどうするのか（保養村の第3次計画） 2. 新しい武雄市の今後はどのように変わっていくのか がばいばあちゃんを今後どのように活用していくのか 旧市町の今後の財政負担をどのようにしていくのか 教育行政の在り方について 3. 農道、市道の整備及び管理について
12	17 小 池 一 哉	1. 平成18年度武雄市農業の総括と次年度へ向けて 2. 道州制について 3. 夕張市にみる財政再建について
13	9 山 口 良 広	1. 武雄の県立中学校の開校による市立中学への影響とその対策について 2. 朝日の統合保育所の考え方と町民グラウンド利用による健康福祉対策について 3. 「わっかもんプロジェクト」の活動と、その中の「武雄三樹物語」について 4. 農業問題について 市内中山間地の農業、農村はどうするのか
14	26 川 原 千 秋	1. ユニバーサルデザインの推進について 2. 住民基本台帳カードの利活用について 3. 地域で催すイベントの必要性について

開 議 10時

議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は26番川原議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、通告の順序に従いまして、19番山口昌宏議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

おはようございます。新しい武雄市になって初めての一般質問ですので、もう今、ここに壇上に立ちまして、議員の皆さん方の顔を見ておるんですけども、顔がぼうっと見えて、もうそれくらいに緊張しております。（発言する者あり）それでは皆さん方、静かに。

議長（杉原豊喜君）

私語を慎んでください。

19番（山口昌宏君）（続）

通告に従いまして、今から私の一般質問をさせていただきます。

まず一番初めに、市長は保養村の位置づけをどのように考えておられるのか。それとも一つ、教育長は保養村に関してどのように位置づけておられるのか、まずこの2点をお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

おはようございます。答弁を開始させていただきます。

保養村の位置づけにつきましては、私は武雄の観光、あるいは市民住民の生活にとって、核の一つだというふうに考えております。その上で、従前の保養村の計画が核になり得るかどうか、これについては私もしっかり議論に入らなければいけないというふうに考えております。そして、先般の議会でも申し述べたとおり、果たして保養村という名前が市民、あるいは県民の皆さんの気持ちをとらえるかどうか、それも含めて、私は検討をすべき時期に来ているのではないかと考えております。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

青少年育成の活動の場として、現在、保養村の一角を使用させてもらっておりますが、わんぱくスクール、あるいはジュニアリーダーの養成ということで活用させてもらっております。宇宙科学館も含めまして、青少年の健全な活動場所として大変有意義であると思っております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

それでは、今、温泉ハイツ周辺、要するに保養村周辺のすべての公共の施設が民間に移行するといいますか、そういうふうな状況になっておりますけれども、その中で、例えば、かんぼ、これは19年の3月ですね。そして、下のあれは何ですかね。（「ハートピア」と呼ぶ者あり）ハートピアが21年ですかね、そういうことで民間に移行をされるような状況になっております。保養村をつくった当初は、武雄市としては、まず公共的な建物を基準に考えておりますということで保養村をつくられておりますけれども、保養村をつくるに当たっては38億円ぐらい、今現在でも投資をなされております。しかし、38億円のその投資の中で、果たして38億円分の内容であるのか、至って疑問だと思っております。それはなぜかといいますと、保養村の第3次整備計画が策定をされておりますけれども、この策定の中身を見ただけで、市長はどのようにこれを見て考えられたのか、まずその辺のところについて御答弁をお願いしたい。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は、この武雄温泉の保養村第3次整備計画、これについては、私は4月に市長になりましたので、この策定作業には一切かかわっておりません。その上で、政治家として申し上げるとするならば、これ、ちょっとてんこ盛り過ぎて、ほんなごてこれが現実的にできるかどうか、予算の兼ね合い、それとこれは全面展開ですもんね。だから、そういう意味では、これは機関の長としてではなくて、今、私は一政治家として答弁を申し上げておりますけれども、ちょっとこれを全面展開するよりは、むしろこの中にあるものを段階的に分けて整備をするべきではないかというふうに考えております。もとより、もう少し私もこれはちょっと勉強する必要があるなというふうにも考えております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、市長答弁の中にありましたけれども、見はしたけれども、これは私はかかわっていない。もちろん4月の就任ですから、これについてのかかわりは恐らくないと。しかし、この第3次の保養村整備計画、これは議員の皆さん方が全部もらわれた分ですね。しかし、企画の方で借りてきました。これが第3次整備計画基本設計業務委託と書いてあります。これを借りてきたんですけれども、これをつくるのに幾らかかったか。約3,000千円。正式に言えば280何万円だそうです、約3,000千円ですね。280何万円と3,000千円といたら、物すごい違うけんが、それはやめてくださいと言われましたけれども、約3,000千円。きのうの競輪事業課の方での答弁の中でもあってありましたけれども、健全化計画も3,000千円かかりま

した。しかし、ここで問題に、皆さん方に考えていただかねばならないのは、両方で6,000千円使います。6,000千円使った割には、きのうの答弁では、もう3年前んとやけん、あんまり参考にならんですね、いろいろ情勢は変わっていきますからと。情勢が変わっていくのはわかった話なんですね、もともとが。それで、両方で6,000千円。果たして、これを6,000千円使った意義があったのか、いささか疑問に思うわけです。

保養村のこれを見たときに私が感じたのは、二、三点、ちょっとこれを見ながら申しますけれども、1点目は、この中で池ノ内のため池の周辺の整備をしますと書いてあります。これは莫大な金がかかるわけですよ。この周辺整備というのは、私は15年前にこの議会で言ったことがあります。それは何かというと、北方ではされておりますけれども、北方の焼米堤ですか、あそこは水辺環境整備事業でされましたよね。私は15年前に、あの池ノ内の堤を水辺環境整備事業でしなさいと、してくださいとお願いをしたわけです。県にも私は行きました。そのとき、県の本課の職員さんは、うん、これはおもしろかのうと。池ノ内の堤の真ん中に橋をかけて、あそこを行ったり来たりしたら、子供たちも、あるいは一日じゅう遊べるかもわからんものうと。そして、その整備をしよう。県は乗りますよという話だったんです。しかし、武雄市は何と言ったかと。いんにゃ、そいばすぎですねと。もうその職員さんはやめておられますので、もちろん名前も何も言いませんけれども、私たちの仕事のふゆっですもんねと。その一言で終わりやったわけです。

もう一つは、この中で見よったら、例えば、山に紅葉を見るとかなんとか書いてあります。これを、紅葉を見ると書くようであれば、27番議員の散歩コースであります柏岳、あの柏岳に生活保全林事業で整備をしましたね。トイレもないような整備なんですよ。私は15年前に、それを保養村の周辺をしたらどうですかと提案しました。しかし、それもなされていない。

そして、もう一つ疑問に感じるのは、せせらぎプロムナードという、あれは川ですか、水路ですか、何ですか、ありますよね。今現在、あそこを見に行ったらどうなっているか。草が生えて、そして唯一グリーンに、おっ、これはきれいかのというように思うのは何か。クレソン。水ないとんきれいかぎですよ、クレソンなら取って帰って、我がうちでおよごしないとんして食わるっ。しかし、書いてあるその中で、そしたら、きれいな水が流れる対応は、水はどこから持ってくっとか。そういうふうなことは何も書いてなかわけです。そして3,000千円、この点についてどう思われますか。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

おはようございます。お尋ねの基本設計の業務委託ですが、これについては発注額が2,835千円になっております。これにつきましては、昨年の7月に質問がありましたように、第3次の整備計画をつくりまして、それを受けまして基本設計の業務を行ったというこ

とでございますが、今議会にもありますように、武雄市の財政は非常に逼迫をしているということで、今後につきましては慎重に対応していきたいということで考えているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

私が言いたいのは、慎重に、それはもちろんやらなければいけないと思います。私が言いたいのは2,835千円、むだ金やなかったとかいて言いたかたですよ。そいだけかけてする値打ちのあったとですかて言いたかた。きのうの競輪事業の健全化計画もしかり。

それで、けさ、ああそうか、市民病院も健全化計画で委託に出しとったにゃと思って、市民病院の事務長にお尋ねをしましたところ、いや、それは十分に元は取ったばんたて。十分に元を取れるような健全化計画であれば、何も言わんわけです。きのうの答弁では、もう3年前んとやけん、もう世の中変わっとるですもんねと。世の中の変わっていくのは当たり前です。それだけで3,000千円使うてもらうたら、税金ば納めよる市民はどがん思うですか。余りにもお役所仕事のやり方のような気がするわけです。その点について、市長、どのように思われますか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

市民病院のコンサルに出した、コンサルからの報告書は私もつぶさに読んで、これはようできとるといふふうに思いました。これをもとにして、委託費を減らしたりとか、あるいは業務の提携の見直しをした。したがって、これは十分に元を取っている。

今後、先ほど名前が出ました競輪であったり、あるいは保養村の整備計画は、今後これをどう生かすかによって、元が取れたか、取れんかというとは判断をすべきだといふふうに思っておりますので、現段階でこれが失敗だったか、成功だったかというのは答える段階には私はないといふふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

さすが市長です。前の市長に、ちゃんと思いやりを持って答弁をされて、やっぱり東大卒業、同じ学校の出身だなと思っておりますけれども、いずれにしても、これを見たときに、余りにも漠然とし過ぎるわけですね。

そして、その中で、ずっと見よったら遊具なんかのこともあるわけですね。その遊具ば見よるぎ、安くても1,000千円ぐらいするわけですよ。これからはちょっと教育委員会の方に

入りますけれども、この遊具なんかば見よったら、本当に安くて850千円。それとか3,580千円とか、いろいろ遊具を書いてあります。これは材木でつくった 材木というよりも、間伐材でつくったような遊具をいっぱい書いてありますけれども、教育委員会にお尋ねは、こういうふうなどを、親と子供で間伐材をもらってきて、できはせんかと。あるもので、そこにある遊具で遊べというのじゃなくて、親と子で、あるいは学校の先生も含めて、その学習の面でこれをつくれはせんかと思うわけですよ。例えば、学校の子供の親御さんの中には、職人さんも、大工さんもおんさっでしょう。あるいは土建業さんもおんさっかもわからん。その人たちと、今、仕事のなかとけん、あんまり忙しゅうなかです。そういうことで、子供と親と先生と地域と一体となってこれはできないか。その点について、教育長、どのように思われますか。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、全く私も同感でございます。実は、わんぱく広場というものを一部お借りして実施しておりますが、そこは農業体験ということで、子供たちと、それから大人の皆さん方とで開墾をいたしました。そして今、ようやく4年目で、タマネギとかジャガイモとかまでつくれるようになったところでございます。

また、地域の皆さん方の清掃作業がありますが、そのときにいろいろと木材等が出てまいります。そういうものも、実はあそこで野外活動をするときの木材に、たきものにするためにストックをさせてもらおうとかということで、今、私どもが使わせてもらっておりますところは、全く野生的な広場ということで、なるべくそういう遊具というような発想はしておりません。しかし、今、議員御指摘のように、子供と大人との共同作業の場、これはこれから大いにしていかなきゃならないわけでございますから、金をかけての遊具というよりも、今、議員の御指摘のとおり視点で、これからも進めていくつもりでございます。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

教育長の考えがそういうことであれば、去年の間伐材が東川登の内田地区というところに、山にどがしこでんあるですもんね。私に言ってもらえれば、生徒を連れて、いつでも来てください。

そしたら、次に移ります。

かんぼの宿武雄ですか、あの上のは。あれが来年度の3月で閉鎖して、9月議会で市長答弁の中にあっただかと思えますけれども、武雄市で買うばんだという答弁がなされましたね。その中で、武雄市が買う。買うのは結構かと思えますけれども、買った後、どういうふうな

やり方をするのか。その辺についての答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

前回の議会で、かんぼの宿については、まず武雄市が一たん買い受けるという、取得の意思があるというふうな答弁をいたしたところであります。

まず、今後のスケジュールについては、12月末までに郵政公社と私との間で最終的合意に向けて、今、最終調整をしております。これは売却の値段、そしてこれに動産が加わるかどうか等々を含めて、今、最終調整をしております。実務は、古賀副市長と私とで今やっております。

その上で、行政と郵政公社の間で、もうこの値段で行こうということが決定をした場合に、直ちに議会に相談をして、臨時議会を開いていただきたいというふうに考えております。その時期については、もう年内は無理でありますので、早ければ1月に、このための臨時議会を開催して、そこで御議決を賜る、そういう手続を今考えております。

議会の議決を経た後に、正式に諸条件を含めた値段が確定いたしますので、前回の議会では、私は一たん取得をして、指定管理者から売却まで幅広い話をしておりました。今の私の考えは、市内の事業者を優先して、私はこの売却価格をお願いをしたいというふうに思っております。具体的な手続等については、これからちょっと詰めて、また議会に相談をしてみたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

私の考えとしては、今、市長が答弁されたように、もし買うのであれば、買った後、すぐ売ってください。売るについては、やっぱり武雄市に会社がある、あるいは武雄市に本社機構がある、税金の取れるようなところに売っていただきたい、そのように思っております。

やっぱり公共的に、例えば、行政が持っておって、何というですか、どこかに貸すとかなんとかいうのであれば、これはもう温泉ハイツでもしかりですけれども、温泉ハイツの場合は条件がついて、5年間はだめですよということで今の状態なんですけれども、やっぱりもう早く売の方があくがないのかなと私も考えております。

議長、ちょっと休憩してもらっていいですか。

議長（杉原豊喜君）

暫時休憩いたします。

休	憩	10時24分
再	開	10時32分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

ただいま山口議員の申し出についてでございますけれども、質問者と執行部とのやりとりですので、執行部答弁への発言や私語は厳に慎むようお願いをいたします。

19番議員、質問を続けてください。19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

そうということで、かんぼの宿もスムーズに行くようお願いをいたしまして、もうこの件についてはこの辺でとどめて、次の質問に入りたいと思います。

新しい武雄市の今後はどのように変わっていくのかということで出しておりますけれども、その中で、がばいばあちゃんのロケを今後どのように活用していくのか。一つの例として、がばいばあちゃんのロケが済んだ後、何と申しますか、ロケがあった場所と、例えば、自分のところの会社の昼食場所とをセットで熊本に営業に行って、営業に行った結果が、約5,000人の方の予約がとれたという話なんですね。それで、そこで昼食を食べたときに、大体3千円ぐらいのめどで計算ができると。それは何かというと、食事代と、そこで買う土産代で大体1人頭3千円。それくらいぐらいは大体勘定できますよという話だったんですね。あるところはそういうふうにして、がばいばあちゃんの効果を有効に使われておる。しかし、中心市街地を見ているときに、果たしてその活用がどうだろうか。

1番議員の質問の中で 質問の中でというよりも、1番議員と、この一般質問に対しての勉強会を 勉強会じゃなかですね、2人やけん。その中で1番議員が、山口さん、あなたは、このがばいばあちゃんはバッター順でするぎ何番やと。それこそ私も1番と。市長と同じで、それは1番バッターくさいと言ったことがあるんですけども、1番バッターの役目は終わったと。そいぎ、それを市長の話をちょっとかりれば、やっぱりればホームに帰さんばいかん。ホームに帰すということは、やっぱりこれを活用してもらおうと。そういう面で、市長として北部、要するに商店街の方たちに、どのようにしてこれを、その活用をしてくださいというよりも、その活用のあり方、仕方、そういうふうなものをアピールされていくのか、その辺について答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今回の答弁は、北部を中心に答弁をしたいというふうに思います。

まず、私がぜひ必要だと思っているのは、「佐賀のがばいばあちゃん」の、きのう資料館の答弁をいたしました。これのミニ版を、ぜひ北部の商店街の空き店舗。例えて言うと、本山酒造の跡であったりとか、あるいは今もうシャッターがどんどん閉まりよるですね。ああいったところに、一つ核になるようなところにまずそれがあって、そこに1回、観光客の皆

さんとかが来ると。それで、ここの商店にはがばいばあちゃん草履があるとか、ここの商店にはがばいばあちゃんせんべいがあるとか、この旅館に行けばこういったあれがあるという、一つの核になるような拠点施設が私は必要だというふうに思っております。そこと、実際の旅館であったりとか、商店であったりとか、そういうきめ細やかな連携がある方が、北部の商店街の皆さんにとってはいいのかなというふうに思っています。

今、何でそんなことを言うかということ、観光客の皆さんが来たときに、どこがロケセットなのか、いろんなことを言われるわけですね。だから、一たんここに、北部のところに来ると、一番集客のあるけんですね。そこで、いろんなお土産であったりとか、ロケ地であったりとかという紹介ができて、そこでタクシー2社、あるいは旅館との連携が今後広がっていけばいいなというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ちょっと一つの例ですけれども、今から言うのは、私の先輩である平野先輩が、山口、ちょっと来てみると。それで、はいと言って行って、平野議員と話す機会がありましたので、その中で話をしておりましたときに、きょう朝さいて、きょうの話じゃなかですよ。その会った日の朝、テレビで日向市のことのありよった。宮崎県の日向市ですよ、がありよったと。それは何かと言うぎ、山田洋次監督の「男はつらいよ」、そのロケの誘致ば日向市がした。しかし、来てもらえんやったと。ところが、山田洋次監督が日向市を気に入るとんさつと。気に入って、10何年来、ずっといまだにつき合いがあつとるですね。それで、日向市が行政じゃなくて市民レベルで、山田洋次監督とつき合いながら、いろんなことを勉強しながら、要するに日向市の浮揚のために、市民レベルで今やっておられる。年に何回か山田洋次監督も、いまだに日向市においでになっているという話なんですね。これはまさに、今度は幸いにしてロケに来てもらった。ロケまでしてもろうたないば、結局、行政はきっかけをつくったわけですね。これを生かすも殺すもその後なんです。例えば、極端な言い方すれば、牛を水飲み場に連れていくことはできる。飲むか、飲まんかは牛次第です。行政がきっかけをつくった。そのきっかけをつくったならば、それを生かすも殺すも今度は市民だということなんですね。

そういうことで、市長も、あるいは教育委員会も、あるいは我々議員も、このきっかけをいかに生かすかということで、今後はやっぱり大いに考えていかんばいかなやろう。このがばいばあちゃんについても、多くの人たちが一般質問されました。これは、その後で一般質問する私はがばい難しかです、それこそ。そいけん、がばいばあちゃんについてはこの辺でやめたいと思いますけれども、次に、新しい武雄市の今後はどのように変わっていくのかという中で、財政負担をどのようにしていくのかという質問を出しておりますので、それに移

りたいと思いますが、これは市長にお尋ねします。

合併をして、なぜ金のなかとか。合併して、首長は3人おんさった。ところが、その首長が1人になった。議長も3人あって、副議長も3人おんさった。これも1人になりました。助役、収入役は、今度は副市長制になって2人、6人おったとが2人になりました。議員だって、56人おったのが30人になります。それで、なぜ財政がこんなに厳しいのか、市長にお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

例えて言うならば、185億円のうち、先ほどの人件費の削減で、全体が10パイがあるとするならば、1削られたということです。それを上回って、今、補助金、あるいは地方交付税で段階補正って今まであったですね。これももう段階的に削られていく。今まで武雄みたいな小規模の自治体は、そういう地方交付税にさらに優遇で、しかも、特交といって特別交付税もかなり面倒は見てもらえた。しかし、その部分も、もう手をつけられよるといったことからすると、1の行革努力に10の削減を迫られているというのが、今の武雄を含む小規模自治体の現状であります。したがって、例えて言うならば、これだけ身を削って、削ってするにもかかわらず、その補助金。我々はもうほとんど補助金、7割以上は交付税を含む補助金で成り立っておりますけれども、その削減のスピードが今早いということで、合併に向けて議会、あるいは前の執行部の皆さん、あるいは職員の皆さんたちの努力を上回るような削減のスピードが続いているのではないかというふうに分析をしております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

交付税を含む段階補正、合併をする前は段階補正は10年間は据え置きですよとかいう話があったですね。交付税だって、実際これを見れば、交付税は減っておらんわけですね。去年とことしというよりも、例えば、16年度と17年度、17年度と18年度を比べたときに、交付税そのものはあんまり変わっておらんでしょう。それで、なしがんきつかろうかになて、どうも腑に落ちんわけですね。

それで、合併ばするときに、負担は軽く、サービスは高くといって、合併協議会の中で当初は話がありよったですね。2回目ぐらいから、負担は軽く、サービスは高く一言も出てこんやった。それはなぜかというぎ、それは無理なことなんです。負担ば軽うして、サービスば高うしいきらないば、金のなかばんたとは今言わんです。例えば、固定資産税の税率とか、水道料金とか、下水道の問題とか、保育料の値下げとか、いろんな値を下げたり、負担を下げたり、あるいは窓口業務の金を下げたりしておりますけれども、そういうふうな

ことで果たしてできるのかなと。やっぱりある程度のことはやっておかんことには、皆さん方、均等にサービスはできんのじゃないかと思うんですけども、内政担当の副市長、どんなですか、答弁いただけますか。内政担当として、上げたり下げたりの合併協議会の中であつたですね。そういう中で、果たして、こいばこのまま続けていたて飯ば食わるっか、食われんか、その辺のところを大まかでもよかですけども、答弁できますか。よろしく願います。

議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

古賀副市長〔登壇〕

合併協議の中での話と現在の状況だと思います。合併協議の中では、いろんな項目について協議がなされております。例えば、地方税の取り扱いですね。それから、使用料、手数料等の取り扱い。これらにつきましては、合併協議会の協議事項につきましては大いに尊重しなければならないと思っております。ただ、その中でも特に使用料、手数料等につきましては、受益者負担の公平さ、そういうものが言われておまして、原則に乗った料金設定、そしてまた定期的な見直しを行うというようなことも明記されております。そういう形で、現状に照らし合わせながら、適時的に見直しをしていきたいというふうに思っているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

私が今の市長と知り合ったのが3年ぐらい前だったと思うんですけども、私の議会報告のときにオブザーバーで来てもらって、そのときに合併は行くも地獄、引くも地獄ばい、私はその当事者ばいという話を市長がしたのを今覚えております。そして、その当時、まさか市長選に出てくるとは夢にも思うちゃおらんやったです、実際問題として。しかし、おれは市長選に出るけんということで来たときに、私は市長の公約といいますが、ピラを一生懸命配りました。矢筈も一軒一軒歩いて回るし、楠峰も一軒一軒歩いて回りました。それはなぜか。市長が書いているそのピラの中に、私は高槻市で病院を呼んできました。あるいは財政のがん厳しかところを、これだけに頑張ってきました。私の子供のような年齢のこの若さで、それだけのことをしてきたならば、これは武雄市も、ちょっと失礼な言い方もわかりませんが、そのときはまだ市長じゃありませんでしたので、この男に夢ば託して、おれも武雄市のために一生懸命頑張ってみゅうかなという気になって、私は市長選でそういうふうなことをやってきたつもりなんです。そいぎ、学校も誘致するばんた、あるいは企業も誘致するばんたという、そのパンフレットですか、それを見て頑張ってきたつもりなんです。そして、市長に当選して、今、半年。その半年の間、外政については、大田副市長を初め市長、

もちろん市長は先頭でしょうけれども、大田副市長もそのための副市長ですから、どのようなやり方で、例えば企業誘致なり、あるいは学校誘致なり、今どのくらいくらい前に進みよるといえるのか、努力をされているのか、お尋ねをしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、企業誘致からお答えしたいと思います。

さきの答弁でお答えしたとおり、1社、9割5分ぐらいまでもう決まりかけております。年度内に公表ができるというふうに思っております。20人から30人規模の半導体の工場になるかと。進出の先は、若木の工業団地の2ヘクタールの一角だというふうに考えております。そういった意味で、私も1年以内には必ず1個だということを自分にも課して考えておりました。これについては、大田副市長に実務的には先陣を切って、今まとめてもらっているところでありまして、いい報告ができると思います。しかし、当該県と、まだバトルはしよるわけですね。やっぱり引き抜く方もエネルギーが要ります。引き抜かれる方もパワーが要ります。そのせめぎ合いを今しておりますけれども、大田副市長と企画部長で今一生懸命やっております。これが企業であります。

あと数社、問い合わせが私のところには来ております。しかし、やっぱりしんどかとは知名度のなさなんですね。高槻で、私も自分の力を過信していました。高槻でぼんぼこぼんぼこ呼んでこれたとは、もちろん行政当局が、市長がもう私に企業誘致の担当部長をしてくださいと。ほとんど机におらんやったわけですね。関西大学に行ったり、鳥栖に進出したり、プロポリスのところに行ったり、ほとんどおらんやった。私がもうずっとそこの企業に張りついておったわけですね、学校とか。そのときは、やっぱり高槻といたら説明せんでよかったわけですね。どういったところかというのは、もうみんな知ってっけんですね。しかし、武雄は一からすれば説明せんばいかんわけですね。説明しよるうちに、ほかのところにとられるというのが実際のあり方なんです。同じ条件であった場合に、この知名度のなさ、ブランド力のなさというのがちょっとやっぱりしんどかけんが、それは今、他方で上げている。それが実情であります。

次、学校です。学校は小中一貫の進学校、これは女子になろうかと思っておりますけれども、今、交渉をしております。これについては、先方から1点、条件が出されております。新幹線です。新幹線が通らんごたところに行きません。そういったところで、どうやって今後の西九州の発展があるんでしょうかというのを私に切々とと言われるわけですね。そういう意味で、学校の進出をするかどうか、もうかなり前向きになってもらっています。1,200人規模です。新幹線次第だというふうに私に突きつけられておりますので、それもあって、私はトップセールスをこれから先もしていかなければいけないというふうに考えております。企業でも同

じです。新幹線が来もえんごたところに、だれが進出ばすっかと。だんだん私も熱くなってきましたけれども、そういうふうに言われる昨今であります。企業、学校、今そういう状況にあります。

それと、もう一つですね。できれば今、足りない、足りないと言われる看護師さんですね。看護師さんの正看のあれが足りんわけですね。あるいは今どんどん需要が膨らんでいる、マッサージをされる、その学校が一つ来てほしいなというのは思っておりますし、今幾つか話が来ておりますので、これはどういう状況になるかまだわかりませんが、今後需要がふえていくのは、むしろさっき言ったような、学校よりも、むしろそっちの方がまた需要がふえていくのかなということで、私もまた外政担当の副市長とともに誘致に頑張っていきたいというふうに思っております。今がその現状と今後でございます。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

実は、今、状況はどがんたつとるですかと聞いた後、ひょっとするぎにゃ新幹線が条件で、新幹線の来んぎにゃて、来るとが条件と。それがネックになつとりゃせんかい、実は聞こうと思うとったわけです。そいぎにゃ、さっき答えられましたので、もうそれで、今後も頑張っていたきたいと思えます。

それと次は、きょうの新聞に、2007年度予算案の中で交付税の増減を焦点と書いて、30兆円の、あんまり数の太かけんが言葉も出んごたあばってんが、前年度が30兆円の国債発行ばすると言いよったとが、25兆円に減らしておる。その5兆円はどこに響くか。交付税に響く。これについて、市長はどのような感想を持っておられるのか。あるいは交付税で言うぎ、どれくらいぐらい、ひょっとするぎ減らさるつとやなかろうかにゃという頭がおありなのか、その辺について答弁できますか。よろしくお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私もけさの新聞を読んで、ちょっとショックを受けました。今、交付税が全国で19年度で16兆5,400億円です。19年度、16兆5,400億円になって、18年度が15兆9,000億円と、大体16兆円前後で動きよるわけですね。その中で、まともに5兆円、例えば交付税に振りかぶってくるですね。そいぎんた、11兆円しかのうなるわけですね。しかも御案内のとおり、交付税というのは、我々みたいな小規模団体に厚く配分ばされよるわけですね。だから、これがまともに来た場合は、もう財政運営できません、無理です。だから、我々としては、それが交付税にかぶらないようにしていかなければいけないと思っておりますし、それは総務省と財務省の狭い意味での話ではなくて、これはほんなごて地方行政が成り立っていくかどうかと、

そういった岐路に立つのが、けさの新聞報道だったというふうに思っています。

ともすれば、夕張市だったり、きょうも朝のテレビで熱海市ですか、熱海市が財政危機宣言したですね。それで、あたかも地方はむだ遣いの多かというふうに今どうもなっとるですね。みのもんたさんなんか、もう何かつぶれてしまえというような言い方ばしょんさあですね。みのもんたさんは何かそういう感じなんですね、悪かところは。1回ああいうふうにマスコミ報道されれば、十把一からげのようにそういうふうに思われるわけです。そういう風潮が非常に私は怖く思っています。

その上で、最後にしますけれども、じゃ、どのくらい減らされるやろうかと。日本の場合は、大体足して2で割った数字が最終的な落としどころとなると思っています、大体今まで私の経験則上。議員も多分同じことをお考えだと思います。そういう意味で、やっぱり1兆円から2兆円程度は多分交付税に響いてくると。そうなってくると、2006の骨太の方針とやっぱりずれるわけですね。総額は堅持しますと。しかし、もう竹中さんもおんされんわけですね、閣外に去ってしまっ。だから、そういう意味での、何というんですかね、今回の安倍総理が打ち出されたのが、私はちょっと優先されるとじゃなかかなという非常な危機感を持っております。これについて、できることは私も一生懸命やっっていこうというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ということは、いずれにしても、我が武雄市としても、最終的には税収の確保を何とかしなければいけない。とどのつまり、そこなんですね。

そこで、先日、牟田議員の質問の中で、伊万里へ水ば売ると、どがんじゃい努力ばしようやという話やったですね。その中で、ふだんの市長の答弁の歯切れのよさというのは影を潜めて、うにゅうにゅうにゅうというような言い方で答弁がなされましたけれども、それこそ水は死活問題、武雄市も死活問題なんです。その点で直談判、要するにトップセールスの直談判をしてでも、今からでも遅うなかと思う。県にでもトップセールスをかけるという気持ちがおありなのかどうか、答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先般の牟田議員の私に対する質問で、また私のプライベートの時間がなくなりました。マスコミの皆さんとか、関係者の皆さんから、山のごと電話のかかってきました。そういう意味で、この市議会というパワーが、そのやりとりですね。これがどれだけの人を引きつけて、どれだけの問題提起をしたかということで、改めて議会、このやりとりの重要性を痛感しま

した。

その上で、やっぱり私も考えたです、議会からも言われましたし。県当局にはもう伝えました、こういう話が出ていますと。知事にはやっぱり伝え切らんですね。もう物事決まりよるところで、ここで投げかけるといふことにすると、私の心情とはやっぱりちょっとずれるわけです。だから、そういう意味で、私は県よりも、むしろ当事者たる伊万里市さんが、やっぱりこれは助けを求めてくるといったときに、我々は直ちに対応ができると、対応したいというのが私の精いっぱいのお答えであります。これ、だいでん見よんさあけんですね。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

しかし、いずれにしても、水の問題ばかりじゃない。背に腹はかえられん。武雄市民も、5万3,000の武雄市民が食うて飲んでいかんばならんわけです。そのときには、やっぱりトップは腹をくくって頑張ってもらわんばいかんと思うわけです。

前議員の質問の中でも、財政の厳しかけんがて暗か話ばかりごつとい、やっぱりもうこのごろの一般質問の中身を見よつても全部そうなんです。何じゃいる明るか話はなかとですかねと言いたいような気がするわけです。

例えば、昔、竹下内閣のときやったですか。ふるさと創生資金といって、各自治体に1億円ずつくんされたですね。そういうふうで、武雄市も何じゃいる出すような基金は、各町に幾らずつないとん、どうしてもこれは緊急を要するばいというごたつとの仕事のあるはずやけん、そういうふうな面で、何か明るかニュースか何かなかですかね。その辺、財政を預かる人としてどがんですか。お答えできますか。市長ですか、よろしくお願ひします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も暗い話は嫌いですので、明るい話をしたいと思ひます。

今、行革担当部長、企画部長の方で、いろんな基金の見直しをしております。あるいは、いろいろ財源の重複の部分とか、これを一たんかき集めようというふうに思ひております。その上で私は、これは議会にもきちんとお諮りをしなきゃいけないことですがけれども、これをできれば周辺部対策として各町に5,000千円から10,000千円、今ないところもありますけれども、各町のまちづくり協議会に交付をしたいというふうに思ひております。そのお金で全部できればそれはいいですがけれども、あと足りない部分は、地区の住民の方からプラスアルファして、そういうまちづくりの交付金、基金をつくりたいというふうに考えております。

これについては、もうあれですもんね。実際まちづくりをするといったとき、やっぱりお金が要るといふのは私も重々思ひております。それと、やっぱりそこに住民の皆さんたちに

私は参加してほしいと思っています、こういったところに使うべきだとか。だから、私は、さっきいみじくも出ましたけれども、竹下内閣のふるさと創生基金でしたっけ、1億円の。あれは物すごくよか話で、今あれは悪かった、ばらまきと言われよるでしょう。あれは使われる、交付された方がろくなのばつくとらんわけですね、オールジャパンで見た場合に。あれを例えば、1億円で、ある町なんかは、それを次代の子供たちにとって奨学金に使ったりとか、あるいはまちづくりというふうにするために、その後押しに使ったりとか、そういうふうに使っておるところもあるわけですね。そこでうまく使ったところは、あの交付金はほんなごてありがたかったというふうにありますので、一たん我々がそうやって腹をくくって交付する以上は、各町がそれを真にどういうふうに使っていただけるかといったところが私は問われていくというふうに思っています。そういう意味で、私はまちづくりの整備交付金について検討をこれから開始して、早ければ来年の3月に議会に御説明、お諮りをしたいというふうに考えております。ちょっと6月になるかもしれませんが、十分、もう少し中で詰めさせていただければありがたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、市長が選挙をする中で、あるいは選挙後も含めてですけれども、合併をしてよかったか、悪かったかは、周辺部の人たちが合併をしてよかったのと言うて、初めて合併は成功なんだと市長は申されましたね。これはもう何十遍となく私は聞いたわけですね。そういうことを考えたときに、今の話を含めて、せめて明るい話の一つもあった方が、人間だれしも一緒だと思いますけれども、生きる上では希望もあるんじゃないかと思っておりますので、その辺を考慮しながら、無理のないよう、しかし、どこまでが無理かと言われたときに、やるのも無理かもわからん、使わんで置いておっても無理かもわかりませんので、その辺のところは熟慮に熟慮を重ねた上でしてもらいたいと思っております。

では、次に行きます。

教育行政のあり方についての質問を出しておりますので、これは多くの皆様方が今までに取り上げられました。例えば、いじめの問題であり、教育の今後はどがんすつとかいというような問題で、やっぱり3日目ともなると、教育問題で質問ばするとのなかごとになりましたので、1点だけ。

今の武雄市内に、例えば、私は東川登ですので、東川登の出身の学校の先生が、例えば、東川登の小学校なり、川登の中学校なりに何人ぐらいおんさるですかということで調べてもらいました。その結果が、だれもおんされん、一人もおらんところが若木小学校、武内小学校、西川登小学校、東川登小学校、橘小学校、川登中学校、北方中学校なんです。一人もおらんところが、地元の出身の先生がおらんところが。確かに、広域の異動かもわかりません。

しかし、私に言わせれば、これの方が、だれもおんされんところ、こういうふうなのがいじめの原因になるんじゃないかと思うわけですね。

それはなぜかというぎ、例えば、校長先生なり教頭先生なりがそのの、例えば、私は東川登です。東川登の出身の教頭先生であり、校長先生であつたら、あつ、この子はあその息子やもんの、あその孫じゃもんのと。大体家庭環境がんじゃない。大体わかりますね、子供も少なかとやけん。そいぎ、何かあつたら、ああ、あそこはこういうふうやけん、こういうふうな対処ばするぎよかの。これは地元の者じゃなからんばわからんわけですね。例えば、同じ東川登でも永野と宇土手は風土が違います。気候は余り変わらんですね。風土は本当に違うわけですよ、考え方も。そいばわかるとは、地元の先生やなからんばわからんわけです。それをこれだけ、7校、一人もおんされんわけですよ。そして片一方では、いじめのありよるけんが、どがんじゃないせんばいかん。それはなかるうもんと私は言いたかわけですね。ほんなごて年配の先生やつたら、ああ、あその孫はがん遊びよつたもんにて。もう極端な言い方をすれば、おしめつけているときから知っておるぐらいの話、そんなものでしょうが、小さな学校やけん。こういうふうなとを教育委員会としてもっと考えられんものか、その点についてお尋ねをします。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、現在、町出身の教職員で全くいない校区もございます。これは今御指摘のとおりでございます。この教職員の人事につきましては、皆様方御承知のとおり、全県的な視野で行われているわけでございますが、実際、学校経営をする校長にとりましては、今御指摘のとおり、地域に根差した職員がいるか、いないかで大きく変わってまいります。私もそういう経験をした一人でございます。

これまで地元の先生を一人でも多くということ、広域人事の中でも教育長会や、あるいは教育委員長会等でも、県の方では再三話題になっております。しかし、これが十分でないということは、もう認めざるを得ないわけでございますが、この議員の御指摘のことは、全県的な県民の皆様御意見でもあらうと思っております。私ども人事を直接任命する立場ではございませんが、服務監督権者としての気持ちは今後も伝えていく努力をしていかなければならないし、またそのことで頑張っていかなければならないと、こういうふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、教育長が全県的な異動ですのと。教育長会なんかでもその話をしておりますよと。

全県的なそういうふうな要望であれば、例えば、出身の先生をそこに置くのは簡単じゃないんですか。だれでも希望、佐賀県民の総意ですよ。それこそ、どこかの首長さんが、これは市民の総意やけんが新幹線反対ばんとはいよんさると一緒でしょうもん。県民の総意ならば、できて当たり前じゃなかとですか。

例えば、東川登小学校の校長先生はどこからですか。波多津んにきからですよ。川登中学校の校長先生はどこからというぎ、佐賀からです。佐賀の先生が川登中学校に来て、あるいは波多津の先生が東川登小学校に来て、気候風土もわからん、親の面も知らん、子の面も知らんというごた、そういうふうな先生が来て、いじめのありよるばんと。対処のでくっですか。こういうふうなを見たときに、地元の先生がおって、生活環境、家庭環境がわかった上で対処のでくっじゃなかですか。県民の総意であれば、教育長としてももっと強く働きかけていただきたい。要望します。

それでは、次に行きます。出しておる分は質問をせんばいかんと思いますので、早足で行きたいと思えますけれども、農道、市道の整備及び管理についてということで出しております。

まず、農道の方から行きますけれども、今、農道整備に各区に20立米ずつもらっております。年間20立米ということは、どういうふうなことかというぎ……（「15」と呼ぶ者あり）15ですか。そいぎにゃあんまりひどか、まだ悪か。15立米ならば、例えば、10メートルの延長で3メートルの幅で、やっぱり車の通らんばいかんけんが7センチぐらい打ったとする。それでも10メートルで2.1立米要るわけですよ。そいぎにゃ、15立米で70メートルぐらいしかなかですね。

東川登の袴野の例を挙げます。袴野の農道で今、生コンが打ってないところが1,829メートル、区長さんからこれはいただきました。1,829メートル割る70メートルでするぎ、20年ぐらいかかるですね。そのぐらいかかるでしょう。20年、仮にかかったら、手前は壊れとるですよ、生コンの打ったとは。そして、15立米もろうて、地元の区長さんはありがとうございましたと言いよんさる、市に。そして、ちょっと言うていいか悪いかわかりませんが、何と云わしたか。東川登は、特に農道の整備のおくれとるもんの。南永野なんかこの倍ある、舗装ばしとらんと。そいぎにゃ、仮に倍するなら、20年なら40年かかるですね。そういうふうな対応ば、例えば、9月の議会やったですか。15番議員の石橋議員の質問の中でもありましたけれども、農道の生コン支給、単独土地改良事業で何じゃいできんじやろうかと。これは15立米の生コンの支給を続けても、永遠に続けても間に合わんです。どこかで対応はせんばいかんと思うですけれども、その辺についての答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員御指摘のように、現在、集落内の農道舗装につきましては、地域の協力を得まして、1地区15立米、これを限度に生コン支給をいたしまして、農道の舗装を進めているところでございます。

それで、現在の15立米につきましては、地区で一律に15立米という形でしておりますけれども、大きな地区、小さな地区ございますので、新年度からは、この生コンの支給につきましては効率的に支給をするということから、支給量の見直しにつきまして、現在、検討をいたしております。

それから、舗装の期間が長くかかるんじゃないかということですが、これにつきましては現実そうでございます。ただ、農林課といたしましては、予算の要求をいたして、なるべく早く舗装ができるようにということでやっておりますが、財政状況もございまして、なかなか進んでいないということでございます。それで、今回、12月の補正におきましては、4,000千円の追加をお願いいたしております。

それと、もう一つでございますが、平成19年度から国の事業として実施をされます農地・水・環境保全向上対策事業が開始されますが、これを活用して農道舗装のスピードアップを幾らかでも図っていききたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

来年度から新規事業の予定がありますので、それに乗かって頑張っていきたいということですが、言うばかりじゃなし、実際頑張ってくださいよ。昔、モデル事業というてあったですね。そのモデル事業が一番初めに出たときから10年後に武雄市がモデル事業ばしたです。あれはモデル事業じゃなかですよ。出たないば、すぐ行くとがモデル事業でしょうが。そいけん、昔、企画課じゃなくて、何と言いよったですかね、一番初めのときは。あのときに私が言うたとは、企画して立案すつとがここの仕事やろうもんで。10年もたってからあんたたち、がんとばするとやて。そして、2年か3年で終わったですね、モデルは。そういうふうなことのなかのように、出たないば、さっとやるというようなことをやってください。

次、市道の維持管理についてお尋ねをします。

市道の路線が合併をして979路線になったそうです。総延長609キロ。そして、武雄市の1キロメートル当たりの維持管理費は幾らか。1キロ150千円なんです。あら、1キロ150千円なら大概あるたい。これは錯覚です。1メートル当たりに換算したら15円やった。県を見ればどうなっているか。県道183キロ。維持管理費は幾らか、289,000千円。そいぎ、キロメー

トル当たりの維持管理費、約1,600千円。1,600千円と150千円、県と市の違いやけんが、がしこ安かとかにゃと思う。ただ、財政の厳しかということは十二分にわかっております。しかし、もうある程度の市道は整備をされております。今後、この市道整備の後、何が残るか。維持管理しかないわけです。

たびたび東川登の例を出して済みませんけれども、東川登には立派な高速道路の側道があります。この側道の維持管理はだれがしているか。今までは一銭ももらわじ、地元の住民が区役で草を刈っておりました。この一般質問を出して建設課に行ったときに、たまたま、また袴野の区長さんの名前が出るですけれども、袴野の区長さんの来ておんさったです。それこそ、何しやあ来たのまいて。いんにゃ、実は側道の草刈りばした。そいぎにゃ、側道の草刈りばしたけん、油代ばくるって言いんされたたいのと。去年は、その油代さえなかつたわけです。たびたび私は言いよったですけれども、一步前進なんですよ。油代は知れたもんです。しかし、なかとよりかはましです。

今から先の維持管理は絶対必要で。意外と1年に一遍か二遍、必ず専決処分といって、あそこで事故の起きたもんのまい、保険でしました。1年に一遍か二遍、必ずありよるですね。それは保険ですっけんが、市の財政から出しよらんもんのまいて。これは当たり前じゃないわけです。道は、舗装が当たり前にして、草を刈っておって、それで当たり前なんです。そいばしゅうでちゃ、維持管理しかなかわけでしょうが。

それで、県に問い合わせ、草刈りの金の幾らかんたて聞いたですね。そいぎ、何て言いんされたか。これはマル秘と。大体平米当たり90円近うあるですもんね。草刈りだけでも何千万円となからんばできん。しかし、やっぱりその辺で今後の道路情勢を考えたときに、もう補修、維持管理しか今後はなかと思うわけですね。区画整理事業なんかをしたときの道路は別ですよ。しかし、もう今現在の新しい道路、それなりに舗装ができておりますので、維持管理のその辺のところについて、トップとして、この状況を踏まえてどうお考えなのかを質問します。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

道路の整備には二つあります。一つは、新道を要望に沿ってまたつくっていくこと、それと現道の維持補修、大きく分けてこの二つがあります。

私といたしましては、これも議論を呼ぶと思いますけれども、現道の整備の方に重点的に予算を張りつけたいというふうに考えております。今あるものをきちんとメンテをして、それを有効に使っていただく、これが一つの、私は武雄の道路行政のあり方ではないかというふうに考えております。その上で、私も地区の皆さんの御協力に深く感謝をしたいというふうに思っております。

そういう意味で、道路の整備補修について、私は先ほど予算の重点配分と言いましたけれども、その中で一定の人件費はきちんと配慮、ケアすべきだというふうに私自身は考えております。そういう意味で、ありていに言えば、新道整備に係る予算を一部削ってでも現道整備に充てる。そこで、穴ばこの修復に、まずハードに充てる。それで、先ほどお話がありましたような草刈りのソフトの補修というのも私はあると思います。その部分に私は予算を振り向けたいと考えております。

議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、武雄市の財政は厳しいということには変わりはないわけですね。しかし、厳しい、厳しいと言いながら、何もせんぎにやまだ厳しくなる。厳しい中にも、ゆとりのある市政へ向けて、今後、執行部と議会が一体になって頑張っていかなければいけないかと思っておりますので、その点は我々も執行部も心して今後やっていきたいと思っております。

どうも、これで終わります。

議長（杉原豊喜君）

以上で、19番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。

次に、17番小池議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

19番の山口議員の迫力ある一般質問の後、非常にやりにくかわけですが、なおかつ、暗か話ばかりすんなどおっしゃいましたが、まず農業問題に入りますので、あんまり明るい話もございませんので、御勘弁を願いたいと思っております。

まず最初に、6月議会で品目横断的経営安定対策の、11月30日締め切りですのでということで質問をしておりました。現在の進捗状況等を、事務局で結構ですので、お願いしたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

品目横断的経営安定対策の件でございますが、これによりまして、集落営農の組織化を図ってきたわけでございます。武雄市では既存の農家の再編制度化、それと共同乾燥施設を核とした組織化ということで、54の組織の計画をいたしました。そのうち一部、中山間地域を除いた45の組織が設立を済ませております。これは11月末でございます。11月末までに、すべて品目横断的経営安定対策の加入申請を済ませております。

それから、個別の認定農業者でございますけれども、認定農業者の加入状況につきまして

は、対象11名の中で、秋まき麦の作付者等10名が加入申請済みということになっております。

〔17番「カバー率を教えてください」〕

11月末現在で、そのカバー率でございますが、認定農業者10名、集落営農組織が45団体の計55経営体が加入済みということで、市内の水田等における加入者の面積カバー率は、米で約70%、それから麦、大豆はほぼ100%のカバーということになっております。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

カバー率が麦と大豆で大体100%ということでございます。本当に関係機関なり、並びに団体の皆さんに敬意を表したいと思っております。本当にありがとうございました。

しかし、この問題がやっと動きかけるのはこれからです。今、秋まき麦の真っ最中です。ことしは天候不順で大豆もなかなかさばけんで、まだまだ麦の作付も、まきつけもまだ中途半端な状況ですが、いよいよ正念場でありますので、あの組織、45、集落営農を立ち上げられてスタートしました。一番肝心なのは、この収益の配分方法ですよね。何でも組織がうまくいかん場合は、その金ば分配するときですよ。このときが非常に組織というのが、いろいろ利害関係があつてがたがたありますので、最後までそこら辺の指導までやっていただきたいと思っております。

やっとカバー率100%クリアしたということを知っていましたが、先般来の対オーストラリアとの自由貿易協定ですか、これがいよいよ年明けに本格的な交渉になるということで、恐らく今の水田農業、特に麦ですね。ほとんど壊滅するんじゃないかと言われております。けた違いの面積ですからね、オーストラリア。武雄の水田面積が2,600町と聞いております。オーストラリアの1戸当たりの耕作面積が4,000町歩だそうです。何というですか、昔で言うB29と竹やりの比ぐらいの、まだ開きのあつちやなかならうかなと思っております。そこと、いよいよこの制度を生かして戦わんばならん。裏にはがんことのあつたけん、こればあせがったとかにゃと、こううがった見方もしております。

その麦の代金、今ずっとわかってまいりました。今までは11月に播種をしまして、7月には大体皆さんの懐には入っていたわけです。これが今の制度の中では12月ですよと。そして、なおかつ緑の政策ですね、部長御案内のとおり。これが12月にしか来ませんよと。あと黄色の政策においては、3月か、早くて4月やろうと。そして、残りの販売代金は、売れてももうて、これは販売業者、我々の団体であります全農がやっておりますが、これは売れてしまわんば来んですよと。これが大体二、三年かかるとですよ。じゃ、百姓はどがんするという話です。

これば聞いたときびっくりしました。この情報が二、三日前に入ってまいりまして、これは通告しておりませんので、どがんしましょうかと市長に投げかけても、一地方のレベルで

どうのこうのとやれることではございませんが、いろんな機会を通じて、大体これも決定だそうです。これは我々の上部団体であります農協を通じて、12月に来る麦の生産費ぐらいは7月ぐらいに前倒しで、貸し付けでも何でもよかけんが、せんばいかんばんということで、今、折衝をしております。それでも、今まで7割ぐらい7月に来ておった金の半分でしょう。ほとんど生産費を引いて、共乾とか、そういう生産費を引くと、もう全然地元には残らんと、手元には残らんとというような状況です。

やっと集落営農で4町規模だとか、20町以上の集落営農をつくりましたとなって、市長、御案内のとおり来てもらいました。うちの集落営農の設立総会に、忙しい中、駆けつけていただきましたが、あとき126名の参加で200町規模の集落営農をつくったわけですが、もうあれから3名やめられました。農業をやめると。幸い、それは話し合いがっておりますので、隣のおじちゃんとか、地域の人たちがカバーをしていただきましたので、全体の面積要件は変わりませんが、ちょっとこれじゃどがんしゅうなかということで、4カ月のうちに、もう3名が農業を離脱されたというような状況です。

そして、逆に、そういう方たちの田んぼを預かって、今まで3町、4町つくりよった人間が、やっぱり5町、6町、一番太かとかで、うちでも今度10町規模の、麦作だけにすれば10町規模ぐらいの農家が出てまいりました。我々も全面的に協力して、加勢に行ったりなんしたりしておりますが、彼が言うには、おじちゃん、これじゃもう来年の集合税でん納め切らんばんと。どがんすると。とてもじゃなかばってん、麦代の入ってきて初めて、集合税は6月から始まりますよね、10等分で。そがん集合税でん払い切らんごたあ状況になるよと。太か百姓ほど、これはきつうなるばいというようなことです。

また、牛、畜産農家、あのBSEの風評被害で、本当に壊滅的な打撃を受けた畜産農家がおられました。やっとここへ来て設備投資まで金ばちょっと回そうかというぐらいに回復してきました。これは、アメリカのBSEという天佑といいますが、我々にとってはそういう神風も吹いたわけですが、そこへ持ってきてオーストラリアから関税撤廃と、ゼロですよという、今度の年明けてからその交渉に入るということを、やっときょうの新聞で普通紙に載りました。今まではほとんど我々専門ので載ってました。農業というのを市長、日本はもう要らんとですかね。私、きょう、ある新聞の社説ですか、フォーカスを見よったぎ、日本が難儀したときは必ずオーストラリアから食糧ば支援すっけん世話やくなという項目も含んだ交渉が始まるやに聞いております。これは市長の考え方で結構です。本当に、日本にもう農業要らんとかにかという気持ちにさえなってまいります。もう暗い話で済みません。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

日本にとって農業は必要不可欠、絶対に要するというふうに思っております。そういう意味

で、今、農水省、あるいは外務省が、私もそれは新聞で、きょう同じのを見ていると思います。けしからん話だと思っています。食糧を、これこそ国民の生命、財産にかかわる根源的なところを、オーストラリアがいつでん助くっけん日本は心配せんでよかて、そればうのみにするとのどけおるでしょうか。けしからん話と思いますね。それを読みよったときに、また頭に血の上ったですね。これはちゃんと言うてやろうと思っています。そがん信頼でくっですかて。私は今の農業交渉はおかしいと思っています。

その上で、じゃ、日本はお先真っ暗かと。武雄はお先真っ暗か、僕はそうじゃないと思っています。というのも、オーストラリアの肉を食べてみました。おいしゅうなか。牛乳も水っぽか。これは、ひとしく皆さんたちも同じだと思います。本来ならば1年かけてつくるとば、1カ月んごとしてつくって、どこがおいしかででしょうか。日光も人工光に切りかえて、地下でつくりよんさあですね、鳥とかお肉はですね、というふうに思っております。

そういう意味で、日本が今までのきっちりした農業を続けていく。例えば、小麦。香川の小麦はおいしかわけですね。これは、日清製粉が特Aでいつも買いよるわけですよ。これは、どがんオーストラリアが頑張っても太刀打ちできません。あるいは、他県が頑張ってもこれは無理です。これはおいしかです、はっきり言って。その香川の特Aの、これは日清製粉が買い集めよるとばってんが、どこに行きよるかというぎ、香川のうどんの、今、うどんブームの火つけ役なんですね。そいけん、香川のうどんは、あれは小麦がおいしかということと、技術力とマッチングしておいしかわけですね。だから、そういったところに絶対負けないような小麦をつくらんばいかん。で、小麦は、議員、あれは生鮮食品ですもんね。やっぱりずっと置いとくぎ、酸っぱくなるわけですよ。だから、そういう意味で小麦をすぐ供給できる。だから、地元にもその受け手ばつくらんばいかんと思っています。すぐ出して、すぐ使えると。そういうことをすれば、私は小麦はまだ大丈夫と思っています。そういう意味で、生産管理ばJAとか、小池議員の力強いリーダーシップでまとめていただきたいと思います。これは結構、苦勞、苦難はあると思います。何でそこまで言われるとやて。しかし、そいば乗り越えんぎんた、私はブランドにならんと思います。小麦は、讃岐のを目指して頑張りたいと思います。

それと牛肉です。佐賀牛、びっくりするですね。今、全国的に見たときに、私、出張行ったときに可能な限り百貨店に行くようにしています。東京、大阪、そこで販売のあれば見るわけですね。そいぎ、今、神戸牛の横に佐賀牛の置いてあるですね。新宿の高島屋、あるいは大阪の阪急、ここに置くのがステータスになるわけです、ブランドになるわけです。そういう意味で、佐賀牛は神戸牛と変わらん値段で置いてある。私は、オーストラリアでもアメリカでも勝ちきると思います。

それと乳製品です。これは、乳製品は佐賀牛のごと太かロットじゃ無理ですもんね。そいけん、例えば、これは上田牧場の牛乳とか、あるいは浦牧場のヨーグルト製品とか、ある意

味、卵と牛乳を加工した上で出していく。それで、付加価値も私はつけんばいかんと思っています。その証拠に、2カ月ぐらい前の日経新聞に載っていました。ランキングで、日曜日にごっといつくですね。あのときに、驚くべきことに僻地ばかりですよ、人気のあるところは。北海道だったり、岩手だったり、そこがもう年収20,000千円から30,000千円稼ぎよんさあわけです。取り寄せてみるぎんた、そがんおいしゅうなかです。武雄でつくっておんさつとがよっぽどおいしかです。しかし、それがもうブランドとなっておるわけですね。今、通信販売で幾らでも買えるわけですね、楽天とかで。だから、そういう意味での乳製品は、そういったところに活路があると思います。

最後に砂糖です。砂糖は、皆さん徳島の和三盆で御存じでしょうか。（「知ってますよ」と呼ぶ者あり）ありがとうございます。まだ飛ぶごと売れよるですね。皆さん苦しか、苦しかて言いよんさあです。しかし、年収ば聞いてみたら8,000千円から10,000千円で、どこが苦しかかなと思うわけですね。しかし、それは、和三盆も物すごく加工代の要るわけですね。だから、それを京都とかに卸しよんさあわけです。京都の和菓子は、ほとんど徳島、高知の和三盆なんですね。だから、砂糖もいろいろ加工品質によって、今、沖縄がサトウキビで頑張りよんさあです。だから、そういう意味で、武雄で砂糖が、どこがどうなのかわかりません。だけど、そういうふうに買ってもらえるような加工、そしたら、きのう申し上げたような大豆も一緒です。高く買えるような品質をしてもらって、ブランドをつけるのは、もう私の仕事だと思っています。そういう意味で、農業経営者の皆さんたちには高く売れるようなものをつくってもらって、それは私がトップセールスでどこでも売りに行きます。そういう意味での、明るく力強い奮起を私はお願いしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

市長の心強い、力強い後押しで、何とか暗い気持ちも少しは吹っ飛んだところでございますが、先ほどから出ておりますように、町中の商店街がシャッター通りになってしまったと。いつじゃい古川知事の話でも、佐賀の中心街のシャッター通りにいかがわしい店ができたとおっしゃりました。もうジョーク半分、ほんなごと半分と思いますが、理由ば聞くぎ、シャッター通りが一番目立たんと思ったけんと、ちょっと笑い話みたいな本当の話だそうです。

これもやっぱり大店舗法の改正で、全部今まで規制があって、皆さんが共栄していた商店街が、一躍、もう全部郊外に走ってしまった結果だと思っています。いっちょん変わらんことが今の農村でも起きているわけですよ。せっかく骨折って4町、5町になった。さあ、設備投資もそろそろしかけたわというところに、こがんことがあれば、やっぱり今市長がおっしゃるように、確かに我々のところは平たん地でもあったし、ある程度、何というですか、油断というですか、まあ大丈夫くさんという心のおごりというですか、これがあったことは

否めないと思います。機械でばあっとやるぎ何とかなるくさんと。また補助金の来たんという感じなところもなかったかなと思っておりますが、このまま行ったら、今、市長がおっしゃるように頑張りますが、ほんなて安倍さん、美しい国の日本てと。もう周辺部はすべて荒れてしまうばんと私は言いたかですよ。

これだけ、やっどこさ、辛うじて私の地区も、うちの坊主も含めてですが、20代、30代の後継者がぼつぼつ出てきました。本当に彼ら、若か芽ば伸ばさんばいかんのと。摘まんごとせんばいかんばんということで、我々も後押しをしておりますが、彼らに果たしてこれから先、百姓ばやっていけと言われるっかにゃと。最終的には、だれからも言われとらんけん、我がそれぞれ、うちの坊主も自分で我が仕事を選びました。かつて田崎秀俊とって、佐賀県の農協の中央会のトップを務められて、佐賀みどりの組合長でやめられた方がおられます。惜しまれつつ急逝をなされましたが、彼の言うことが 大先輩に彼と言っては失礼ですが、我がせい、我がせいと言いよんしゃったです。私も信条はそうです。我がせい、我がせいと。人のせいにすんなよと。下手なゴルフばしてOBしようが、我がせいぞと。何でん我がせいぞというようなことでやってきました。私も今まで若かもんと酒飲むときは、だれも我に百姓せろて頼んでばしおっかと、我がせいくしゃと言うてやってきましたが、これだけ制度がころころころころ変わってくつき、ほんなて我がせい、我がせいと言われんにゃというような気持ちで今おります。

市長も先頭に立って、現場の若かもんと会うときは、この前、山口良広議員が音頭をとって代表をしてくれて、認定農家の会ですね。あれにも市長駆けつけていただいて、皆さんとしっかりよか話ができましたが、そういう場でしっかり励まし 励ましというぎ当たるですね、激励と言わんばならんですね。激励をしっかりしてください。あのときの雰囲気もほんなてよかったですよ。そして、今度からは山口良広議員の骨折りで、山内も北方も一緒になった、いっちょの組織になりますよということが正式に決まりました。まだ山口会長、留任をしていただいて、そういう組織をまた立ち上げて、そういうことをしますので、その節はぜひ、市長にも御案内が行くと思っておりますので、よろしく願います。

さっきに続きますが、ことしの台風とか、これもほんなごて我がせいと思うとですよ。これについては、私は今まで行政にも言うたことなかですよ。台風で不作したもんの、何とかせろて。これは言うのが筋違いやけん。やっぱり自然ば相手に我々は百姓ば選んだわけですから、これはもうどがんしゅうなかわけですよ、自然災害ですから。でも、今の気象、特に山崎議員の地元の橘地区のあの大水害ですね。常々、もう年に3回も4回もつかって、これは我がせいかにゃと。今度の常襲水害地対策特別委員会でも陳情に行っまいりましたし、その前、武雄の国交省でも説明を受けましたが、鐘搗川にポンプが入ると。それから、市独自で、東の方にももういっちょつくと。これでちょっとしてみようかということで、これも市長が、異例なことだそうですね。途中でそういうことが、ポンプアップ施設がさらにつ

けられるというようなことは、年度計画外でできるというのは異例なことだと聞いております。市長のお骨折りだと思っております。

そこで、今までのごたあ雨の降り方じゃなかということ、これはもう市長も御案内のとおりだと思います。ゲリラ的に、ばーんと降るけん、そいけん市長も要望書の中で、やっぱりそういう監視機構ですね、こればぜひお願いしたいと。上流部に降った雨が何ミリでということと来ると思いますが、今、土木事務所、それから国交省で内水排水の施設がありますが、そこにセンサーのついとるですね。ここまで来んば上げられんとかいうことらしかです。これは農林水産省サイドでできたポンプアップじゃなかけん、やっぱり皆さんの交通に支障のなかとか、人身にあったらいかんというようなことで、ある程度、農道ぐらいがぺちゃぺちゃとつからんぎんた上がらん位置にあるそうです。そいぎ、今やっぱり頑張ってる、もう米、麦じゃ食われんと言うて、園芸が結構増えてきたですね。しかも、ことしは4月に来たという状況の中で、チンゲン菜が全部冠水したとか、うちのあたりのイチゴが全部冠水したとか。で、一遍冠水したらでけんとですよ。そいけん、生産者、彼らと話して聞きよるときに、もうちょっと早う、ここまで水の来る前、あと10センチ前、あと15センチ前に排水ばされんみゃあかと。そこんたいのシステムは今どがんたつとつかなということですね。これはもう事務レベルでも結構ですので、よろしく申し上げます。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

排水関係を建設部の方で担当しておりますので、私の方からお答え申し上げたいと思います。

御指摘の件につきましても、建設部の方にも直接要望等がございましたので、県の方、それから国の方と、いろいろ相談に参りました。その結果、今のセンサーの位置というのが、いろいろ地元あたりとも協議をして決めたと。どういうことかということ、実は今のセンサーの位置よりも下げると、もう水害が出なくてもそこで反応してなると。そうすると、その分の費用負担、そういったものが非常に、かなり多くセンサーが感知をすると、その分費用が非常に高くなっていくと。そういったことで、どうしますかということから、今のセンサーの高さに決まったということですので、そここのところを地元の方で解決いただくということも一つの条件になってまいりますというようなことです。なかなかそここのところが皆さん方とまだ話ができておらずに、どういふふうに下げてくださいというふうな形になっておりませんが、今、御指摘のとおり、実際に災害に遭われた方もいらっしゃいますので、そここのところで話がついて、何とかそここのところができればそれに越したとは思いませんので、これからまた担当課の方でそういった協議をさせていただきたいというふうな思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

やっとわかりました。一遍決めたけん、もう官の言うことが当たり前やけんがということじゃなかですね。ごっとい作動してまうけん、経費のかかるけんということですね。それはもう15年前にできた内水排水の施設ですから、わかるですが、さっきも山口議員の質問の中にあつたごと、時代は変わっていきよるけん、やっぱり今までなかったハウスができたとかですね。そいけん、それもさっきから言う私の我がせい、我がせいかもしれんばってん、ここんたいはつかるとわかつて来たろうだいと言われるぎそれまでばってん、やっぱり田んかのなかぎ、そけ行かんばしょんなかですもんね。そして、今度は逆に、そがんとこは用水、自分が使う水にも便利かけん、やっぱりそこさん行かざるを得んやつたと。まさか、がんつかると思わんやつたと。そして、特にこの異常気象で、4月、5月にあがんふうということは今までなかったですよ。6月の末から7月、そこんたいのときには大体我々も用心ばして、もうイチゴもやめとるわ、チンゲン菜もちょっとずらかそうかとかあるわけですが、4月、いきなりあがん来たということで、やっぱり膨大な被害ですよ。

米、麦、大豆については、そういう被害のあった場合は農業共済という仕組みがあつて、我々も半分納めて、国が半分出してという仕組みがありますが、そういう仕組みがなかわけですよ。今から、それはもう勉強課題ですからやっていくつもりでおりますが、おれは一回決めたけんが、もう絶対見直すことは不可能という返事かなと思つたぎ、そがんじゃなかということになるぎ、じゃ、今度はケース・バイ・ケース、この地区はハウスのあるけん若干早目に上げてくれんかと。この地区はハウスもなかしと、そういう交渉はできるわけですかね。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

そういった交渉はできると思います。

〔17番「ありがとうございます。一回決めたけんが、絶対だめじゃ 済みません」〕

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

ついつい北方町の癖が抜けませんで、いつもうちの議長から怒られとりました、当時は。一回決めたけん、もう未来永劫だめじゃと。どこじゃいの政党のごとなつてしまふけん、そいけん、やっぱりそこんたいは臨機応変にやっていただきたいと思つたぎ、ありがとうございます。

ざいます。

それでは、最後に農業問題で、農地・水・環境保全向上対策、これについて今どのくらいの周知徹底がなされているのか、これも担当部長で結構ですので、説明をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農地・水・環境保全向上対策事業でございますが、これは平成19年度から開始をされるということで、新しい制度ということになります。そういうことから、地域への説明を十分行う必要があるんじゃないかということで認識をいたしております。

そこで、現在まで市内の全区長さん、それから農業委員さんに対して事業の概要説明を終わっております。さらに、12月中に第2段階といたしまして、区長さんとか地域の関係者に対しまして、具体的な事業内容について説明をするということで予定をいたしているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

先ほどの19番議員の中にもありました地域の環境保全ですね。あれにもこれは使えるわけでしょう。（「はい」と呼ぶ者あり）これも国が5割、そして県が4分の1、そして地元の市町村が4分の1ということで、水田面積に4,400円の補助金というか、補助金じゃなからうばってん、維持費が来るわけでしょう。これの使い道ですよ、今から。武雄全体でこれに取り組む、中山間地があるけん、こっちの補助との絡みもあって、全市を網羅というようなことは不可能と思いますが、さっき言いました、山口議員の質問の中にも出ておった生コン代にも変えらるっとかなということです。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農村の環境整備ということで、生コン代の方にも使えるということでございます。

議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、議事の都合上、1時10分まで暫時休憩をいたします。

休	憩	12時1分
再	開	13時11分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き午後の会議を開きます。

一般質問を続けます。17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

それでは、農地・水・環境保全向上対策、途中でございましたので、続けたいと思います。

いきなり事務レベルに入りましたが、この趣旨ですね。もともとの趣旨は、要するに集落で農家が減ってしまう。今まで全体でやっていた水路とか、そういう保全ですよ。そういう対策に集落を上げてしなさいという目的で、この新たなる事業が始まるやに聞いておりますが、今までも、どこでもそうだと思うんですが、かまどに1人というですか、要するに1軒に1人、1年に1回は、自分たちの村の財産だから、農道なり水路は全部で管理してきた経緯があるわけですよ。そのほかに何かさせると、こういう事業だと解釈しております。

あと、何がそいぎあるのかなということで、現場関係にずっと今話をしておりますが、山口県によか例のあったということで、これは新聞で見たとですが、やっぱり地域ばきれいにしようかということで、女性群が柱になって環境づくりですね。地域の花、こういうことをしっかりやって、今モデル地区になった地区があるということで、来年度は委員長、そこに視察に行きたいと思っております。そういうすばらしい活動をした事例もございます。

それから、宮崎県の綾町ですね。あそこは照葉樹林と有機の里、そういうことで少量物で単価が高くとれるということで、宮崎市内から二、三十分かかるそうですが、土、日に私たちも1回視察に行ったんですが、人出がすごかですよ、お客さんが。そこんたいのそこんたいのと言ったら失礼、ちょっと近所のばあちゃんたちが年収8,000千円とか、すごい話を二、三年前に聞いた経緯がございます。市長、そこんたいで、せっかくそこに持ってきてもろうとるですから、何か提案がありましたら、逆に提案をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

いろいろ私も考えました。これは皆さん御存じでしょうか。においの結構すつとですよ。これはレモングラスというですね。レモングラスで、東南アジアの原産で、これは温暖化のおかげです。武雄でも、もうほとんどただ同然で肥料も要らんわけですね。しこたまとれます。これがちょうど温度が1度また下がるぎんた、なかなかできんとばってんが、そいけん、四、五年前は武雄でもこれはできんやっと思ひます。しかし、今はどこかのレストランであったりとか、私の親戚のところでもこれを庭で植えて、もうどんどこどんで生えよるですね。それで、これに目ばつけました。

一つは、このハーブティーです。これは、東京にホテルオークラであるですもんね。ここで、打ち合わせで昔行ったときに、これは同じ分量です。1,600円やっただす。これで、女

性がこれば買い求めよんさあわけですよ。今、ハーブティーってあるとは全部ドライですもんね。1回乾かしたとばしとるけんが、はっきり言ってそがんおいしゅうなかとですね。しかし、生はやっぱりおいしかわけです。ナイスチャンスです。これをぜひ農業経営者の皆さんで、これは全然手間がかからんとですね。もう種ばばんばかするだけでできます。したがって、あいているところにどんどんこればつくっていただいて、私は片一方で旅館組合とか、これからホテルに引き取ってくれんですかと。朝にそれを出すとか、あるいはこれをふろに入れるだけでもよかとですね、ふろにショウブ湯のごと。それだけでも香りのわあっと出るとですよ。そいけん、特に女性にはこれはよからしかです。冷え性の方とか、なかなかこれはよかと。

それと、これはタイから取り寄せました。タイに今行った日本人の旅行客が何ば買い求めよるか。これは、レモングラスのエキスば抽出したオイルらしかです。これは、レモングラスのにおいのぷーんとするです。これは原価6円です。しかし、日本で売るときは、びっくりしました、4千円です。買いんさあわけですね。

レモングラスをませ込んだ塩です。これは何に使うかというぎ、おふろにこれを入れるわけですね。これだけでも10回から20回ぐらいするぎんた、もう消えてなくなるです。しかし、これが2千円です、日本で買うぎ。塩とレモングラスと別々やるぎんた、多分10円せんですね。しかし、組み合わせることによって、これだけのことができるわけですね。

じゃ、これはタイだけかという話かと思います。しかし、こいば売りよるところが、ついに大阪の阪急に進出するわけですね。きょうホームページを朝見て、もうびっくりしました。絶対ニーズのあるはずですよ。特に、レモングラスに限らんです。ハーブは、これから絶対受け入れられる素地が私はあると思います。それと、手間がかからんですもんね。それで、あんまり土の肥えとるぎんた、においのせんらしかとですよ。そういう意味で、ほんなごてあいとるところにつくっていただく。

一つ、ちょっと話はずれますけれども、クレソンです。あのサラダに使うですね。あれなんか排水口でしよんさるところのあるですね。あの黒尾のレストランとかですね。中野かな、レストランとかですね。だから、そういう意味で、ほんなごてあいとるところでこれはできると。設備投資もかからんと。こういったこともぜひしていただければ。

じゃ、こういう製品化ができるか。今できます。私がこれを中心になってさせてもらいましたけれども、ゆほほです。今、そういう技術ば持ったところというのは、中小企業でいっぱいあるですもんね。だから、温泉水と光触媒を結びつけて、日本で初めてゆほほというのはできたわけですね。だから、そういう意味で、技術は日本はやっぱりすごかです。だから、このレモングラスを安定供給できますということであれば、こういったのがもう現にできるわけです。タイができて、我々日本人ができんということは私はなかと思います。

だから、そういう意味で、これから一つの方策としては、私は大豆をつくることも、米を

つくることも、これは絶対大事と思います。しかし、それ以外で、これは商売のネタになるばいと。これは絶対、女の人気持ちばとらえるというば見つけて、それをどこよりも先んじてつくって商品化する、そこに私は武雄の農業の生き残りばかけたかわけです。先頭を切ってやりたいと思います。ちょっとにおいの強うなってきたけん、この辺にさせていただきたいと思いますが、私の思いは、このにおいと同じように強いものがあります。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

どうもありがとうございました。私ももう来年は60になります。やっぱり今まで私がやってきた農業が当たり前という考えで、市長のような発想がなかなかできとらんやったということを、改めて思い知らされました。今の市長の答弁、説明、恐らく若い農家の人たちも見ると思います。ありがとうございました。やっぱり発想ば変えんばいかんですね。確かによくわかりました。ありがとうございました。今まで、米、麦、大豆、畜産、それだけという頭は切りかえてやっていきたいと思います。

それから、言うておりました4,400円の件です。また現実に戻ります。これは、何か市町村の財政負担が義務づけられているわけですので、財政的に苦しいところ、これは半分でんよかばんたという話があるそうですが、本当でしょうか。これは松尾部長、聞きよらんやったやろう、今。

〔経済部長「いや、聞きよった」〕

これは地域裁量とかなんとかいう新しか言葉で、うちは4,400円出してくれるばってん、うちはきつかけんが半分ばんたと、2,200円しか出さんと。それでもまかり通りますよというような話をちょろっと聞きましたが、いかがですか。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

今回の農地・水・環境保全向上対策の件でございますが、今、原則として1反、10アールですね、4,400円ということでございます。それで、その財源の内訳といたしましては、国が2分の1、それから県が4分の1、市が4分の1という財政の負担ということになっております。

さっき議員おっしゃった、4,400円じゃなくて2,200円でもという話でございますが、それはその地域によって、その分については話ができるということでございます。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

これはあんまりだれでん知らんやった、私もきのうおとといこれば聞いたとですよ。ある行政はそがんすっぱいとか。そいけん、そのまかり通ってよかかなと。また、逆にこればつけ得んけんが、どっちがよかもんかですね。うちはきつかばってん、半分ならつけ得るといふ行政がよかのか、もううちは絶対出し得んけんゼロになすかと。武雄はどがんですか、4,400円で行ってもらえますか。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農林課といたしましては、4,400円をお願いをしたいということで、財政の方にはお願いするようにいたしております。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

まだ3月議会も済んどらんし、そがんことば早まって言うべき質問じゃなかったかなと反省しておりますが、県もまだはっきりしていない段階ですので、しかし、極力お願いをしたいと思っております。

それから、担当課の方でずっと集落を回って、区長さんなり、生産組合長さんなりに今説明がっております、先ほどあったように。話のちょっとかたかて。もっとかみ砕いて、さっきから言うたごと、セメントにも使わるっぱいとかですね。それはもう確かに役人さんやけんが、ぴしっと言わんばいかんと思えますよ。幅はこのくらいあるばんたぐらいまで言わんぎ、してよかもんじゃい、せろて言いよとこっちゃん、するなと言いよらすとこっちゃん、判断に困るというような話も伝わってきております。今までがもう全然なかった制度ですので、どうせ3月議会、うちも据えて、それから県が果たしてどがんなるかわからんけんですね。県が6月の補正となったら、それ以降になると思いますので、まだ時間がございしますのでですね。ただ、手ば挙ぐつとは3月いっばいに挙げんばいかんと思えますので、そがんでしょう、部長。そいけんが、それは手ば挙げたわ、部落内で話のまとまらんやった、うっかんげたじゃですね。そして、こればクリアして初めて来年からの2階建ての分を、反当9千円ですか、これにも行かるつという話ですので、まずこの1階建て、1年クリアするように、もうちかつかみ砕いて説明をしていただきたいというのが要望です。いっちょ、よろしく願います。それから、もうそのとき聞きます、私も。部落で説明会があると思いますので。

次に移ります。道州制ということで通告をしております。

10年後に九州府を実現したいということで、九州市長会、もうとにかく目的ば持たんぎ、だらっとなってしまうけんということで、これはマスコミ、報道機関でばーんとなっております。10年後に道州となった場合、市長が一生懸命、うちは財政改革して、10年間はきつかばんたと言いよって、10年後に道州制と。道州制となったら、このままじゃいかんと思うですよね。恐らくまた広域合併が始まると思います。恐らく鳥栖、佐賀、唐津、そしてこの武雄がその中心となって、大きな合併がまたあると思うわけですが、片一方で道州制で合併するばい、うちは一生懸命頑張ってきたばいと。それよりかも、うがった言い方ですが、10年後、合併するごたんない、ちかっとやっておこうかと言わんでもおかしゅうなかわけですから、市長の考え方をよろしくお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も、10年後には道州制は達成されているというふうに実は思っています。実は私、道州制は夢物語と思うとったとです。九州市長会でも決議があった。安倍総理も担当大臣ばつけて、3年後にめどばつけると。無理やろうもんと思うとったとです。しかし、新型交付税です。新型交付税が、要件が面積と人口なんですね。面積と人口の、この2本立てになるわけですね。そいぎんた、これは合併せんぎんた話にならんわけですね。人口はなかなかふえんです。しかし、面積は合併をすることによってふえます。そうすれば、これは私、合併の一つの色仕掛けと思いました。そういう意味で、新型交付税が議論の俎上にのって、この割合が高まることによって、私は次の合併が加速すると思います。

そのときに武雄の位置です。合併するけんが今のうちに使おうばんたて、それは一つの案と思います。しかし、そういったところが中軸に据えてもらえるでしょうか。今後の合併というとは、私は武雄が中心にならんばいかんと思うとです。西部で。そのときには、ほかの周辺の市町が武雄と合併したかと。そいぎ、武雄の市民の人たちは、やっぱり武雄が中心になるとば一番喜びんさあと思うとです。これがどこかの市になって、役場もそこに行かんばいかんとなるぎんた、それは私は武雄の市民に申しわけなかつたと思います。そういう意味で、武雄市が魅力を、あそこと合併したかばいというために私の仕事があると思っています。それと、それがすなわち武雄市民にとって、それが私はベストな選択と思います。そういう意味で、10年後ば見据えて、スリム化しながら武雄の魅力を高めること、これが議会と我々に課せられた仕事だというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

わかりました。それなら、やっぱり我々も市長を信じて、我慢に我慢を重ねて、明るいあしたを見て、こらえていきたいと思いますが、やっぱりあそこといっちょは合併しゅうごとなかて言われるごた、そういうまちは私たちも望みません、もちろん。つらかろうばってん、苦しかろうばってん、我々は合併してきた、やってきた。そして、やっぱりあそこば中心に合併していくというまちになって、初めて結果が生まれると思います。現実には、これはちょっと聞いたうわさ話ですが、もうアタックのありよるかんだ。（発言する者あり）いや、ちょっと聞いたですよ。ある町とか、あちこちから、もう早目に武雄市と合併という、市長、答えられる範囲でよかです。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

アタックは結構あります。もうびっくりするごとあるです。しかし、そのアタックも、ある町、ある市が武雄市と合併したかて、ある人が言いんさあぎ、しとうなかと言う人たちもおんさあわけですね。だから、正式な意思としてあるかないかは別にして、その割合から言うぎ、今の武雄とやぎ合併ばしてみたかという声が多かですね。しかし、私は本来的な合併論者じゃなかわけです。やっぱり私は首長として、今、武雄市政ば預かっておるばってんが、このくらいの規模がベストですね。やっぱり5万人から6万人というのが、こう目が届くわけですね。これが私、前、高槻におりました。35万都市です。そいぎ、市長の顔も知らんぎんた、市長は地域住民の区長の顔も知らんわけですよ。そういう意味で、適正規模からするぎんた、私は本来的に言えば、このくらいの規模から10万人ぐらいがよかかなというふうに思っていますけど、多分時代はそれば許さんと思います。さっきの交付税の話しかり。だから、好むに好まざる、そういう流れになっていくのかなというふうになら直に思っています。アタックはあります。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

議員の心理から言ったら、また選挙かど。いや、これは冗談ですが、そがん早うはなかと思ひます。今、市長がやっど軌道に乗られて、5万3,000人のまちづくりをしっかりと、せめてあと4年後ぐらいに合併というならわかるばってんが、また道半ばで選挙せんばならんかなという議員心理も働いておりますが、とにかく我々も市長を信じて後押ししますから、頑張っていたきたいと思ひます。

続いて、夕張の財政破綻、これはもういろんな方が出されました。大体これをあんまり言うぎ、そいけんうちはきつかるうがということで、市長から逆に逆提案がございしますので、そいけん、何もかんもでけんばい、しっかりといかんばならんという提案があると思ひ

まして、言うまいかなと思っておりましたが、武雄市議会は稲富県議先生からぼろくそたたかれました。9月議会を見て、武雄は何かと。元気、本気、根気ということで、だれも財政のこと、5年後、10年後のことも言うたらんということで、それなら何とないと言わんとなということで質問を上げたわけですが、もう皆さん、ほとんどの方が出されました。きょうのニュースでも奄美大島ですか、あそこもインターネットで公表して、550億円かの赤字やけん、この財政再建団体、これは今の状態では自分たちが白旗ば上げんぎいかんわけでしょう。我々はどがんきつかつても自主再建ばする、自主再建で行くと言うぎ、それでよかわけでしょう。やっぱり行政が、首長が提案して、議会在賛成して、そして初めて財政再建団体ということに、今のところは手続はそうなっていると思います。今、総務省なりが言うてるのは、もうそれじゃいかんと。何でんばってんのまい、がたっとなつてからやぎどがんもされんけんが、早目に把握ばせんばならん、システムばつくりますということで、今の一般会計ばかりじゃなくて、第三セクターから、公営企業から、全部の借金ば集めて幾らというのを常に報告しなさいというような法案が、来年かことしの国会に通ると聞いております。前もって聞いてよかですか。うちは、この前、230億円ぐらゐの起債残高ということで報告を受けておりますが、全部寄せるぎ幾らぐらゐあるかんた、借金。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

本市における起債の残高ということで、通常は普通会計で25,968,700千円というようなことを言っておりますけれども、今議員おっしゃったように、農業集落排水事業特別会計、公共下水道特別会計、それから水道事業、工業用水道事業、病院事業等を加えますと、44,859,600千円という債務の残高でございます。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

市長、これば早う言わんばいかんもん。そいぎ、やっぱりだいでん、市長が言うことはほんなごとてなるです。がんきつかばいと。うちは一般会計で200億円ぐらゐの財政規模ですので、夕張の60億円規模で600億円、あそこは10倍ですよ。あれからするぎまだまだ、人と比べるけん、おれはまだよかということじゃなかばってん、448億円ぐらゐの起債残高ということは、これはもう市民に公表してよかと思うんですよ、すべきと思います。そしてなおかつ、10年間はきつかばんたというようなことを。でもあんまり言うごとなかもんにゃ、これ。あんまり言うぎ、そいけん小池議員、その予算をつけられんとですよと、こがんなっけんですね。

3年、4年くらい前ですか、夕張に行ったことがあるとですよ。すごかまちやなと思ったですよ、あれだけの施設のあったけん。今思えば、どこでもがらんとしとった。すごかったメロン場にしろ、何もなかった、人間もおらんやった。ただ、一番多かったとが「幸福の黄色いハンカチ」ですか、高倉健とか、あの名作。あれの跡地だけはそっくりそのまま残して、昔の旧炭鉱街ですね。そこはもちろんだです。そこは、とにかく観光バスの来ると多かったです。ただのところはお客さんのいっぱい来て、あれも今思えば、やっぱりやっていく、すごかなと思うたです。産炭地何とか法ということで、北方町も大分その恩恵を受けましたので、わかってはおったですが、やっぱり夕張というぎ、がん違うとやというようなことで来たところが、ここ二、三カ月前のこの破綻と、さもありませんというようなことを感じたわけです。

うちも、がばいばあちゃんのコーナーをシャッター通りにつくろうというようなこと、それは大賛成です。やっぱり1回見た映画、それから「幸福の黄色いハンカチ」もそのまま建ててあったですよ。そこにいっぱいお客さんで、写真を撮られていた風景を見ました。

それで、私、農協の役員もしておりますが、農協が今度、大型合併をしますが、その前に、6年前に1回合併しておりました。当時1,000人おった職員が、6年間で180人くらい減ったとです。自然淘汰と、それからいろいろあって、約2割程度の職員さんを切って 切って 切つて 切つて というか、やめてもらってやった。それでもまだまだ人間は多かろうということで、次の段階の合併になっているわけですが、じゃ、武雄市の適正な職員の数ですね。今何名おられて、今後、市長はどのくらいの、武雄市がどンドンどンドン発展するぎ、やっぱり職員もいっぱい要りますし、今のままであったら、ある程度のやっぱり、きょう山口議員おっしゃったように、首長も1人になったばいと。ずうっと3分の1になって、議員も半分ばかりになしたばいとということで、あと市民の方が見ておられるのは、あと職員はどがんするとやと。人件費の削減しかなかろうもんという話も出てまいっておりますので、そこんたいの市長の考え方を聞かせてください。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

まず、私の方から職員数について。これは、せんだって議員にもお答えいたしましたけれども、普通会計ベースで現在409名の職員でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は生首を切ったりとかというのは反対です。やっぱりよか環境で、私はよか仕事ができるというふうに思っています。ぬるま湯じゃなくて、前向きな仕事というのは、やっぱりいい環境で、きちんとしていい条件の中からは生まれんと思っております。そういう意味で、

私は今、時代的によかったのは、言い方は悪くなるかもしれませんが、団塊の世代の方々が今後大量に退職されていきます。そいぎ、数の話だけ言うぎんた、例えば、この年は10人の方がやめられると。採用ば5人にした場合は、自動的に5人の行革になるわけですね。人件費も、片や8,000千円、片や4,000千円というふうにして、その人数以上の効果が出ると思っています。そういう意味で、私は10年間かけて、これは軟着陸ばしていきたかというふうに思います。

その上で、本当にあとは職員の質の問題です。私は総務省において、全国いろんなところば見させてもらいました。がん開きのあるですね。ほんなごて働きよんさあところは、物すごい働きよんさあです。働かんところは、何も働かんです。沖縄がそがんやったですね。がん差のあるとですよ。だから、武雄が今どういう状況かというのは、私もまだここに来て1年たっていません。私が武雄で感じたとは、物すごく仕事をする人とせん方と、差の恐ろしゅうあるなと思いました。これが例えば、私が前おった、私の経験談です。高槻市とか沖縄市とかといったら、大体公務員やけんがこういうふうになるわけですね、真ん中の方に。しかし、これはやる気掛ける能力が仕事力だと僕は思っていますけれども、武雄はちょっと開きがあるのかなと。だから、ここの方々が、やっぱりこういう前向きな仕事をしていこう、武雄を住みやすい都市にしていこうと言ったら、私は武雄はすさまじい力になるというふうに思っています。そういう意味では、私は職員の皆さんたちに期待していますし、質と量の関係では、私はそういうふうと考えております。

議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

17番（小池一哉君）〔登壇〕

私も職員の生首、これはもう絶対反対します。今、市長がおっしゃったように、10人やめたら5人採用ですよ、5人やめたら3人採用ですよという答えに、あんまりすばっとやめたら、中が空洞化してしまうけんですね。やっぱりよか人材は育たんと思いますので、財政改革に向かって邁進をしていただきたいと思います。

終わります。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で17番小池議員の質問を終了させていただきます。

次に、9番山口良広議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。9番山口良広議員
9番（山口良広君）〔登壇〕

ただいま登壇の許可を得ました9番山口です。今まで、山口昌宏議員やら小池議員というすばらしい一般質問があった中で、ちょっとやりにくいわけですけど、私なりに一生懸命やりたいと思いますので、どうぞよろしく願います。

まず私は、今回の一般質問では、最初に、武雄青陵中学校の開校というものがいよいよ始

まるわけです。それに伴い教育問題が大きく変わろうとしています。この中高一貫教育の武雄での開校と、それに伴う教育問題を取り上げたいと思っています。

次に、今議会では、どの議員も財政問題を取り上げておられるわけです。その中で私は、根本的には、今議会で提案されている後期高齢者医療費の対策にありますように、高齢者の医療費問題をどうするかが一番の、この財政問題では大きな問題じゃないかと思っております。それで、この問題を解決する道はどんなものがあるか。そのためには、公民館を中心に、高齢者や地域住民が近くのスポート施設や公民館に集まり、スポーツをやったり、屋内で歌や踊り、碁、将棋など、頭や体を使う機能を回復する運動。

次に、武雄は農村部です。先ほど農業問題がいろいろ議論されましたけど、私はその中で中高齢者の農業対策というものが大事な農業問題じゃないかと思っております。そんな中で、足や腰を鍛え、また頭を使い、それを身近な人におすそ分けし、時には宅急便を利用して遠くの子や孫に送り、コミュニケーションの橋渡しとなるような農業。おじいちゃん、おばあちゃんをつくった農産物はうまかよというふうな、そういうふうな生きがい農業、それもあっていいんじゃないかと思っております。

次に、高齢者の交通安全問題です。交通事故が引き金となって寝たきりになったり、また高齢者の運転ドライバーもたくさんになっております。そんな中で、高齢者講習を充実させて、おじいちゃんの運転は上手かねと言われて、時には孫たちとドライブ旅行ができるような元気なおじいちゃん、そんな方がたくさんふえて、なるだけ病院にかからない高齢者、すなわち医療費が要らないまち、武雄の建設というものが大事じゃないかということ、今、私は考えております。そんなことを今度の一般質問の中で取り上げたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、中高一貫の問題です。武雄で二、三日前ですかね、武雄青陵中学校の願書受け付けが終わりまして、ある程度の願書の締め切りがなり、応募大勢が出たわけです。そんな中で、武雄地区からどれぐらいの方がこの中高一貫の青陵中学に応募されたのか、また全体の応募者数あたりがわかったら、お聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

お答えをいたします。

武雄市内の学校からの応募数は273名、青陵中学全体では420名でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

武雄の中高一貫校の校区は、佐賀県の西部地区でありまして、伊万里市、鹿島市、嬉野市、

武雄市、有田町、大町町、江北町、白石町と、4市4町からの小学6年生の子供たちが受験してくるわけです。

そんな中で、ことしの小学6年生の数を中学校区で見ますと、武雄市内での武雄中、武雄北中、川登中、山内中、北方中を合計しますと、630名の子供が今、小学6年生であるわけです。その中から273名が受験するわけです。そして、これが先ほどの佐賀西部の校区としますと、2,581人の子供がおるわけです。その中から420名が、この青陵中学校に受験をするわけです。そうした場合に、この子供たちが受験した場合の武雄青陵中学に入るときまでのスケジュールはどういうふうになっているか、選抜方法等まで含めてお願いします。質問します。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

選抜方法は、第1次選抜と第2次選抜ということで、第1次選抜は適性検査、これが1、2ということで各50分。それから、集団面接というのが行われます。そして、第2次選抜として、1次通過者による抽せんが行われて、入学予定者が決定されると、こういうふうな手順で行われるようでございます。

それから、日時のことですが、これまで説明会が行われまして、先般、願書が締め切られました。その後、入学の選抜検査というのが行われるわけございまして、これからそういうふうなことで進むことになります。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

第1次選抜の後に抽せんが行われて、第2次選抜が行われるということですけど、その場合に、私が聞きよるところによりますと、今度の選抜では160名が合格するわけですね。そのうちの、第1次選抜で2倍の320人に絞られるということで、それが第2次選抜で160人になるというふうに理解していいわけですか。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

第1次、第2次と、今議員おっしゃったような数字になるかどうかは、これは私どもとしては確認、理解をしております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

数字的に、第1次選抜が320人になるか、プラスアルファになるかということは、まだ選考ということで確定はしていないということですね。それに近い数字が第1次選抜の中で選抜されまして、抽せんという形で第2次選抜で、それは公開であるわけでしょう。（「そうです」と呼ぶ者あり）公開で選抜が行われて、最終的に160人になるということです。

そんな中で、私はこの中高一貫校というものが、現在、武雄青陵中学というものが、いろんな形であり方、ありようが説明をされてきているわけですが、十分にその説明が行き届かなくて不安もあるというのが事実ではないかと思っています。

そんな中で、私は一番危惧するのは、中高一貫中学ではなく、市立の現在ある武雄中学、武雄北中学、川登中学、山内中学、北方中学という今までの学校に行く子供たちです。そこには、今言いましたように、現在、武雄市内の小学6年生は630名いるわけです。その中から273名が今のところ受験をしようということで手を挙げているわけです。その中から、160名のうちに武雄から何人行くかはわかりません。しかし、その子供たちが武雄青陵中学校に通い、あとの市立の中学には、そこに行けなかった子供、受験しても不本意に落ちた子供と、また最初から受験をしなかった子供。1次には上がったけど、2次で落ちた子供と、いろんな形で子供が入るわけです。そして、どうしても地域活動では、子供クラブや、前ありましたように、いろんな地域活動、子供クラブ活動をやっている子供たちのリーダーシップをとるのは、限定はされませんが、どうしてもリーダーシップをとるといふような子供は、この青陵中学校に行くんじゃないかなというふうな憶測をするわけです。そういう中で、市立中学校というものがどういうふうになっていくかというものを私は心配するわけです。それをどういうふうサポートするのか。県立中学校と市立中学校は、教育方針は異なると思うわけです。また、それができなくては、県立中学ができた意味はないわけです。それをどういふふう市立中学校の指導、また市立中学校のよさを市民にアピールするかというものは大事な問題と思いますが、その点はどういうふう考えておられるでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

県立中学校、市立中学校、いずれも現学習指導要領にのっとった学習内容をするということは、これは共通項でございます。ただ、県立中学校は、中高の6年間を見通した教育課程を編成し、子供たちの生きる力をはぐくんできこうと、こういうのが大きな違いだと思います。

市立中学校といたしましては、実はこれまで学校説明というものを、少し今までよりも遅くしておったわけですが、県立中学校の方がこのようなパンフをつくって、県立中学校のあり方等について、実は学校説明会等やってきたわけですが、それで私ども、市立中学校の方もそれに負けてはならないということで、学校長を中心にして、これは川登

中学校でございますが、こういうふうなパンフをつくりまして、学校説明に回りました。これは武雄北中学校でございます。それから、これが北方中学校。それから、これは武雄中学校でございます。このようにそれぞれの学校像というものを子供たち、あるいは保護者の皆さん方に、これまでよりも、こういうパンフ等を使って、こういう学校になしてみたいというようなことを本年度はやっていたわけです。これからも一層これを充実しながら、市立学校の特色ある中学教育の展開をしていかなければならないと、そういうふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、教育長からありましたように、いかに市立中学校の子供たちに、武雄で中学時代を学んでよかったと言われるような教育というものを、ぜひお願いしたいと思います。今、学校の先生たちも、自分で行きたい学校を選べるような、いろんな制度が出てきたわけですので、武雄の中学校にぜひ行って、あそこで教育をしたいというふうな先生たちがふえるような政策というものが大事じゃないかと思っています。そうすることが元気な武雄づくりにつながると思っていますので、よろしくをお願いします。

次に、この武雄青陵中学校が中高一貫ということで6年間の教育をするわけです。そして、小学6年生のときの第1次の選抜がありました。これで次に、今度は中学3年生のときに、武雄青陵 学校が何となるかわかりませんが、中高一貫の高校の部に編入制度があるわけです。そこによりまして、280名の子供が、中学校部160人、その後3クラス分が中学3年生の時点で再選抜をされて、中高一貫の教育が進むわけです。その中に進む子供というものは、先ほどの、どうしても佐賀西部地区では優秀なる子供たちというものがたくさん集まって、その中でサバイバルで勝ち残った子供が武雄の学校に来ると思います。そんなときに、武雄の子供というものは、高校を選ぶ機会が少なくなるということが次に心配になってくるわけです。

現在、武雄市内には、佐賀女子高という学年80名の高校が一つあります。嬉野市には嬉野高校、塩田工業。有田町には有田工業。伊万里市におきましては伊万里商業、伊万里高校、伊万里農林、それに敬徳。鹿島市には鹿島高校、鹿島実高。太良町には太良高校。大町町には杵島商業。そして白石町には白石高校と佐農という県立、また私立の高校があるわけです。そんな中で、武雄市内以外の子供たちは、武雄の中高一貫には自分の意思で、それは武雄も一緒ですけど、自分の意思で、それなりの努力をして受かった子供たちが上を目指してくるわけです。そして、その地域に残った子供たちは、今までどおり実業高校なり普通校という、その地域にある高校に行くわけです。反対に武雄の子供たちは、優秀なる子供が佐賀西部地区から集まり、中高一貫高校を目指した子供たちの中に、不幸にも入れなかった子供たちは、

自分の意思で学びたい学校というものを目指して、鹿島なり、伊万里なり、嬉野なりと周辺部の高校に行くわけです。先ほどの議員の質問ではありませんけど、武雄は今から佐賀西部地区の中心都市にならばらんとするときに、中高一貫校が一つしかないということは寂しいということで、以前の市長には何度となく言ってきたわけですけど、事ここに来て、今さらそれを言ってもどうにもならないわけですけど、それが寂しいわけです。

そんな中で、第1次の再編で青陵高校がこういうふうな形になったわけです。次に、第2次再編ということで、今こちらで考えられているのは、杵島商業と佐賀農業高校、そして伊万里商業と伊万里農林の農業系と商業系の合併という統廃合というものが考えられているわけです。これがうまく進むと、いよいよもって、武雄から次に近い大町にある杵島商業までなくなるわけです。そして、佐農という白石にある高校で、また新たな教育が始まるわけです。

また、そういうふうになった場合に、それで本当に武雄を自慢にするような子供たちが育つかなということをおもうわけです。周辺部の伊万里では、伊万里商業と伊万里農林が合併ということで、大分反対運動がっております。また、前にも牛津高校では、地元、地域に密着する学校を残さんばらんとということで、大変大きな運動があったわけです。そんな中で、県内の再編というものは、また次に第2次、第3次と進むかもわかりません。しかし、なぜ武雄地区だけがねらい撃ちされるのかというものは、私は疑問を持つわけです。その点、市長、どういうふうにお考えをお持ちか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

半分同感で、半分意見を異にします。というのも、まず武雄だけでこれをねらい撃ちじゃ、私はなかと考えています。オールジャパン、あるいはオール県下で見たときに、子供の数がやっぱり減ってきてくるわけですね。私が高校生のときは全国で200万人近くあったのが、きのう福祉保健部長が答弁しましたけれども、今の高校生になる人たちというのは、もう100万人になっていると。たった20年か30年で、それがもう半分になっておるわけですね。だから、それに応じて、その受け皿である高校が減っていくというのは、それは仕方なかというふうに、時代の趨勢だと思っています。だから、その中で、200万人おる中で高校がどんどん減っていく。これは、私は絶対問題だと思っていますけれども、ある意味、器が身の丈に応じた減っていくというのは、一定やっぱりそれは、よしあしは別にして、仕方のないことだというふうには思っています。

そういう意味で、今回の新武雄市の中学校に、やっぱりここに入学したかと。県立の青陵中じゃなくて、武雄市の武雄中学に行きたいというふうに思ってもらえるような武雄中学校にしてもらわんぎんた、私も困るわけですね。そういう意味での、私は応援もしたいと思

ますし、やっぱり教育という武雄に行かんばと。それは県立はあるにして、そういうものにしていかなければいけないというふうに思っています。そういう意味で、私は決して悲観視をしているわけではありません。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私も市立中学校の充実というもの、これはもう最大限の大事な武雄の教育問題だと思っています。それができてこそ教育だと思っていますので、その点は同感するわけです。

しかし、県立高校の再編というものは、前のときに、もっと僕は運動するべきだと思いましたが、商業と農業が合併するということが、私も農業一筋の人間です。そんな中で農業高校でも学びました。現在の農業高校生も、私の家あたりで、地域で研修を受けたりして交流をするわけですけど、農業高校というものは臭い。時には血を見ることもあるし、汗を流し、汚いというふうな格好の中で、あすの農業を目指した子供たちが教育を受けているわけです。その反面、商業というものは、きれいな空気の中で、きれいな施設の中で、そういう環境で、教室の中でパソコンなりを学んでいるのと、大型のコンバインを真夏の中で稲刈りをする人間が、同じ土俵で、片一方は汗をびしょりかきながら、片一方は汗もかかない静かなところで学ぶというものは、ちょっと違うわけです。それを一緒に教育になそうというものが、今の県の統廃合です。

今、県内の県立の農業高校を見ますと、農業高校という看板は全部なくなりそうです。よその地域を見ますと、今、食育を考えた場合、農業高校というものは寄宿舎制度を設けながらも県内の子供を1カ所に集めて教育するという形が残っているわけです。そんな中で、ぜひ私は、伊万里のように伊万里農林と伊万里商業が、農業と商業がひつつくような、ただ定数合わせのような統廃合には、もっと真剣に検討するべきじゃないかなということを私は思っています。ここでいろいろと答弁は求めませんが、これは私の自己主張として皆さん聞いてもらえれば幸いです。

次に移りまして、朝日町の保育園のことと、朝日町グラウンドのことについての問題に移ります。

朝日町民グラウンド建設推進委員会ということで、このような形で要望書ができております。その一部を読ませてもらいます。

さて、朝日町まちづくり推進会では、平成元年度に武雄小学校運動場に夜間照明施設を設置するなど、これまでも町民を挙げてスポーツ活動の環境整備に努めてきました。しかし、一方では、生涯スポーツ等が盛んになるにつれ、町内に活動できる場所が、市内の小・中学校の中で面積が一番狭い朝日小学校の運動場だけしかないということで、朝日町では一貫してまちづくりにグラウンド建設というものを叫んできました。一方、武雄市当局では、朝日

保育所、朝日第二保育所の統合に向けての検討が進められていると聞きます。町民も早期の実現がなされるよう、全面的な協力は惜しみません。そして、将来的には、子育てしやすい環境づくり、健康づくり、高齢者の生きがいづくり、子供から高齢者までが触れ合う町、朝日町の建設に頑張りたいと、朝日町民グラウンド建設推進委員会が平成18年7月7日に陳情しているわけです。

私は、この問題というものは朝日だけの問題ではなく、先ほど冒頭言いましたように、高齢者医療を考えた場合、健康なお年寄りが、汗をかき、頭を動かし、健康に留意して、病院に行かないようなお年寄りであれば、それだけ国民の負担や、我々国民健康保険の負担も少なくなり、ひいては財政の健全化につながるんじゃないかと思って提案しています。ぜひこれを私は、朝日のグラウンドができたならば、周辺部につながり、そして周辺部の地域住民が運動し、元気なまちができることを希望して提案したいと思います。その点についてよろしくをお願いします。

そこで、まず、子育て環境整備の中心にあります朝日保育所と第二保育所の統合と、その施設の充実。延長保育や、武雄保育所だけで行われている1日保育などが充実し、子育てするなら武雄という保育所建設を願っているわけです。

そこで質問です。ちょっと今、保育所の問題だけです。朝日の統合保育所は、
〔発言取り消し〕、市民
に向けて再度、なぜ統合が必要なのか、民営化が必要なのかということ、市民の皆様理解を得るためにも再度求めます。そこで、今後、新しい土地での民間保育所の開設と、朝日保育所の開設へのスケジュール等の御説明をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

古賀副市長〔登壇〕

お答えいたします。

保育所の民営化の計画でございます。民間と競合する業務のうち、民間でできるものは民間移管を推進するという行政改革の考え方ですね。これに基づきまして、公立保育所の民営化を進め、行政運営の効率化と行政サービスの向上を図るために行っているものでございます。また、限られた財源を、選択と集中により効果的に運営するため、運営経費が民間に比べて多額となる公立保育所を民営化することにより生み出された財源を使い、増大、多様化する保育需要への対応、子育て支援対策の充実を図るために民営化するものでございます。

スケジュールでございますが、これはさきの6月議会でも申し上げていると思いますが、平成19年度、用地を取得し、21年の4月に開校したいというふうに考えているところでございます。

〔22番「議長、議事進行」〕

議長（杉原豊喜君）

22番平野議員

22番（平野邦夫君）

ちょっと私の記憶違いなら申しわけないんですけども、朝日の第一保育所、第二保育所を統廃合して、一つにまとめて統廃合して第三地点につくるといふ、これが賛成多数で決められたと質問者は言っていますが、具体的事実に基づいて執行部は答弁していただかないと、いつの議会で、合併の前の議会でしょうけど、どういう議案に賛成多数で通ったのかね。それは質問者の方がしっかり資料を持っておられるでしょうから、それを明らかにしてください。

議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休	憩	14時14分
再	開	14時16分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

ここで、2時25分まで暫時休憩をいたします。

休	憩	14時17分
再	開	14時25分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

先ほどの私の一般質問の発言内容の一部を取り消したいと思います。

「〔発言取り消し〕

というものを削除して発言したいと思います。

以上、よろしく申し上げます。

議長（杉原豊喜君）

ただいま9番議員より発言の取り消しの申し出がありました。申し出のとおり許可することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、9番議員の発言の一部を取り消すことに決しました。

古賀副市長

古賀副市長〔登壇〕

お答えいたします。

若干、経過について御説明をさせていただきたいと思います。

これは、18年度に入ってから経過でございますが、ことしの7月26日に、福祉生活常任委員会におきまして、保育所民営化計画の説明をいたしております。その後、8月に入りまして、朝日統合保育所設置推進代表者会議、これは地元の代表者の方たちに集まっていたいただきまして、保育所民営化の説明をいたしております。そしてまた、9月には、市の職員を対象にいたしまして、同じような説明会を開いております。そして、9月には朝日保育所、そして朝日第二保育所の愛育会、保護者会におきまして、この説明会と、それから統合保育所の場所の問題について協議をいたしております。10月に入りまして、朝日統合保育所設置推進代表者会議というものの第2回目を開いております。また、11月22日は福祉生活常任委員会を開きまして、これまでの経過について御説明をしているところでございます。

また、予算措置としましては、9月の定例会におきまして運営業者ですね。運営者の選考委員会の委員報酬の予算を計上いたしておりますので、皆さん方、御記憶にあられると思います。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

では、こういうふうな形で、今、統合保育所というものが進んでいると思います。そこで、ぜひ私は、この保育所というものが自然に親しみ、また、市長が言っている食育というものが大事だと思っていますけど、その中で私は、さきの福祉生活委員会の方で福井県の小浜市に研修に行ったわけです。その中で、幼児を対象にした、包丁を持たせて、付き添いの保護者はガラスの向こうにおいて見詰めるだけで、地域ボランティアの食会の人々の指導での料理教室を、食育ということで聞いてきたわけです。すばらしい食育というものが幼児の中でなされてました。

今後、私は、新しい保育所ができた場合に、こういうふうに自然に密着し、食の大事さというものを教えるような保育所の開設ができればいいなということを思っているわけです。そんなのを、今ひょろっと言っているんですけど、ぜひできるように進めてもらいたいですけど、よろしくお願いします。市長の意見を聞きたいです。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も、今度民営化された保育所については、山口議員と全く同じ考えであります。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

では次に、健康増進の問題に移ります。

今議会に提案されている、佐賀県後期高齢者医療広域連合の設立というものがあるわけです。75歳以上の高齢者というものは……（「グラウンドの話ね」と呼ぶ者あり）グラウンドの話です。75歳以上の後期高齢者は、全国で約1,300万人。それに対する後期高齢者医療費というものが11兆4,000億円ということで、老人1人当たり877千円となるわけです。1人当たり、これだけの額が高齢者の方に医療費として負担されているのです。これをどうするか。健康で長生きして元気な余生を生きてもらうために、我々は対策を講じなくちゃならないと思っています。それがグラウンドだと思っているわけです。

ここに、医療制度改革の概要も福祉生活委員会の方で勉強したわけですけど、今からは疾病予防を重視した保健医療体系への転換を図り、生活習慣病対策を大事にして、メタボリックシンドローム、内臓脂肪症候群に着目した健康・保健指導というものが大事になるわけです。それらを考えて、ぜひ今からは、地域でスポーツをやり、地域で健康を守るようなことが大事じゃないかと思っているわけです。そこで私は、ここで格好よく表を出して、武雄市内の医療費がどういうふうになっているということを出したいわけですけど、いま一つ、数字に対しては私も弱うございまして、私は地域の活動というものの中から、この医療費の問題を訴えたいと思います。

それは、私のおふくろは北方出身で、もうすぐ80です。おふくろは、北方で毎月グラウンドゴルフを、同窓会をするわけです。その一日の午前中の9時に集まってグラウンドゴルフをやって、お昼には500円の弁当を食べて、その後、カラオケ教室に行き一日を過ごすわけです。それが毎月行われる日程です。それが60代後半から、もう十五、六年以上続いているわけです。

そんな中で、私も時々おふくろをそこに乗せていくわけですけど、その中で、1人のおばあちゃんが笑顔で来られたわけです。あら、あんた久しぶり来たねということで、一月来られなくて来んさったと。その人、よく聞けば、病院に入院しておられて、1カ月おくれで来られたそうです、ということを知ったわけです。偉いですねと言って言ったら、きょうのために、先生に無理言って廊下を歩いて、歩いて、体力をつけて、このグラウンドゴルフに来たんですよということを言われました。おばあちゃん偉かねと言ったら、ほかの者もジェラシーのごとあって、私たちも一生懸命しよるとよというごた話やったです。その話を聞けば、このグラウンドゴルフを朝9時から12時までするには、朝9時ごろから毎日午前中は歩いているんですよと。だから、皆さんここに来ているんですよと。それが地域のスポーツだと思っているわけです。北方には幸いにもグラウンドがあるわけですので、毎月、昼間の時間帯にやれるわけです。そんなグループが他にもおらすとよ、北方のもんはそいけん元気かとよという話を、そこでおばあちゃんたちは私に教えてくれたわけです。

それを考えますと、武雄市内の校区にはそんな施設というものが全然ないわけです。それは確かに、小学校のグラウンドをいろんな形の中で利用すればできるよという学校施設開放の手引というものもあるわけです。それらを考えますと、小学校のグラウンドを使わないときに利用するという方法もあるわけです。しかし、それではどうしても、子供たちが教室で学んでいるときに、グラウンドでカチャン、カチャンと言わせて、グラウンドゴルフなりなんなりをしていたら、どうしても気が散るんじゃないかなというふうなことを考えるわけです。

だから、私はぜひ、その地域の人たちが遊び、健康を維持するようなスポーツ施設、町民グラウンドというものがあつたらいいんじゃないかと思うわけです。それが今、北方のおふくろの同窓者じゃありませんけど、50名ほどでしているわけです。それが月に、その校区で10組なり15組ができるとします。10組できたとして、その校区で500人。それが武雄市では10町あるわけです。それを10掛けたら5,000人になるわけです。そのように、健康で一日一日を元気に過ごそうというお年寄りの方がそれだけふえるということです。そのためには、ぜひ健康維持のためにもグラウンドというものが欲しいです。それが今の武雄市民の願いじゃないかと思っているわけです。

そこで、私は質問です。今、市内には、教育施設を除いて、昼間に今のようなお年寄りの皆さんがスポーツに親しむような施設は、地域のゲートボール場を除いて、広いグラウンドというものはどれぐらい、どの地域にあるか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

ゲートボールなどで使えるグラウンドということでございますが、学校グラウンド、それから小さなゲートボール場、これは除きます。まず、白岩のゲートボール場ですね。それから、武内の運動広場。それから、東川登の運動広場。それから、矢筈ダムの下の運動広場。それから、北方の支所の裏にありますグラウンド。それから、北方東の運動場。それから、北方の運動公園にあります運動場。それと、若木の工業団地の中にありますけど、楠川公園。それと、これは地元の方でつくっていただいた施設ですが、繁昌ダムのふれあい広場というのがあります。それから、これ以外にまた有料という形になりますけれども、白岩運動公園とか白岩の軽運動場、それから山内の多目的スポーツ広場、それからサンスポーツランド北方にあります多目的運動広場、それから北方のゲートボール場、こういった施設がございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今聞けば結構あるわけですけど、地域が限定されるような形であるわけです。ぜひ各町にグラウンドというものをつくってくださいというのが私の希望ですけど、その点に対して市長のお考えをお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も1町に1個あればいいなと思っています。しかし、理想と現実にはやっぱりギャップがあります。それで、私は基本的に、朝日の流れで申し上げますと、新たにグラウンドをつくるというのは、財政上、そして土地の確保上、やっぱり無理なわけですね。したがって、私は朝日小学校が今度保育所とセット、これは前の議会でも申し上げましたけれども、そのときになるべく、今度の小学校の新グラウンドですね。広くとって、なるべくそういったスポーツに起用できるようなスペースをとりたい。そして、カチャカチャ音のするてあったですね。遠くとれば、カチャカチャ音はしても大丈夫です。子供たちは、一生懸命勉強すれば聞こえんごとなるです。そういう意味で、私は併用ということで朝日の場合は念頭に置いています。

それとお願いが、合併になりましたので、もう朝日は朝日とか、武雄は武雄と考えんで、さっきおっしゃったごと、北方に行こうさとか、あるいは山内に行こうさとか、そういう広域的な、もう車を使っていたらできれば私はありがたい、これが合併の一つの効果の意味だというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ私、地域の足というものは、どうしても範囲が厳しいわけですので、その点、車に乗って遠くへ行ける人はそれでもいいでしょうけど、そういうできない方もたくさんおるということを理解して、医療費の増大を考えれば安いものだということで締めくくりたいと思います。

次に、農政問題に移ります。

農政は、集落営農や認定農業者をどう育てるかということで、先ほど17番議員の方から切々と訴えられました。そんな中で、集落営農にしても、認定農業を守るにしても、げた対策ということで補助金というものが、先ほどオーストラリアの農業が来たら吹っ飛んでしまうよという話もあったように、その関税で運用されているのが今の農業、農政です。それがなくなれば、その補助金もなくなり、ひいては日本から小麦、大豆が消えて、それがまた、その次にはライスセンターの運営が不可能になり、米農業まで厳しくなるというふうな、今、瀬戸際の農政というものが行われています。それは先ほど言われたので割愛したいと思いま

す。

そんな中で、私が今一番訴えたいのは、先ほどの高齢者医療の問題じゃありませんけど、山つきの農業地帯です。そこにはたくさんの農業があるわけです。春になったらワラビがあり、タケノコがあり、フキがあり、山に登れば梅がなっている。いろんなものがあるわけです。そんなものを、どう農業振興に役立てるか。その山つきをぜひ、農政をやることが、集落営農、認定農業の大規模農業を守ることも大事でしょうけど、それ以上に武雄の農家を守るには、その辺の対策というものをとってもらいたいと思っています。

その中で、今、集落営農の一つとして、朝日町で繁昌地区という集落があるわけです。集落全体で16ヘクタールほどの土地を持ち、今まで思い思いにコンバイン、トラクターを持って農業振興をやってきたわけです。その中で、今まで6ヘクタールの麦がつくれたわけです。しかし、今度の集落営農では補助金対策の中から3町しかできないよというふうな、3町分以上つくれば補助金等が少なくなって、余りもうけがないから、3町つくっていっところ。そのかわりに、タマネギをつくろうと集落営農で話が決まりました。しかし、タマネギには、今度の集落営農の話があったときは時期が遅く、それなら高菜をつくろうということで、高菜が幸いにも契約栽培ができることで、高菜が栽培されるようになりました。

このように、今、集落営農では、先ほどの答弁の中で、米は70%、麦、大豆は100%のカバーが集落営農できてきているというふうな答弁がなされたわけですが、こういうふうな山つきで、以前、集落営農地域内で麦作付が余りできていない地域での麦作振興というものが、どのようにして進めるのか。補助金がなくなることは別問題にして、指導をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

集落営農組織の設立によりまして、米、麦、大豆につきましては、生産性を高めるということできております。ただ、議員御指摘のように、中山間地域につきましてはなかなかそれが進んでいないという御指摘でございます。

これにつきましては、集落営農の組織化によりまして、品目横断的経営安定対策の加入はもちろんでございますけれども、農機具の効率的な稼働とか、余剰労働力が出てまいりますので、その余剰労働力をどういうふうにするかということも出てまいります。その中で、野菜生産の拡大も有効だということで考えております。野菜生産につきましては、野菜の低価格時の経営安定対策といたしまして、野菜価格の安定制度というのがございます。対象品目といたしましては、一定規模を持つ産地である必要がありますので、野菜をつくるとかいうような方法をとっていただければというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今、インターネットを調べてみれば、そばが物すごく検索内のふえていきよるですね。1週間前に「そば」と引いたときと今やったら、1.5倍くらいまたなっています、「そば」と引いただけでも。それだけ、そばを求めて3,000里じゃないですけども、いろんなところから今、全国から来よんさあですね。佐賀で言うぎ、どこでしたか、浜玉があったりとか、三瀬がそばを中心にしてそばロードをつくったりとか、そばが一つの私は救世主に実はなるというふうに思っています。これはいろんな方々がもうおっしゃっています。

そういう意味で、中山間はソバをもう少しつくってほしいなと思っております。実際、武雄にもそば屋さんがあったり、できたりしています。どこのソバば使いよんさっかと言うぎんた、この前、宮崎産とは使いよると。そいぎ、何で武雄ば使ってくんされんですか。安定供給のなかですもんね。そういう意味で、需要をですね、欲しかというところと出したかというところが、完全にもうずれておるわけですね。だから、私はそばというのは健康食でもあるし、全国的にも佐賀といったらそばと、何かイメージのあるような気がします。そういう意味で、そばを一つ念頭に置いていただければ非常に助かります。そばロードということで町おこしが、長野県の安曇野とか小諸とか、いろんな例があります。どうか1回視察に行っていたいで、そういう意味で、ちょっと1回、また我々に教えていただければというふうに思っております。

それともう一点が、先ほど申し上げたような、私はレモングラスば一例で言いました。だれもつくりよらんところに目をつけていくのが今後の農政だというふうには思っています。それと、食品加工とか、そういう製品加工もある程度セットにして考えるべきだというふうに思っておりますので、ソバとハーブ、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ソバということで、私も頭がないとがでてきましたけど、ソバをまくといえ、8月下旬から9月ということで、稲なり麦等のセットというものをどういうふうに持っていくかということと、収穫をどういうふうにやるかというものを検討して、そこんたい勉強してみたいと思います。

それで私、先ほどの野菜のタマネギなり高菜の作付というものが、今から中山間地の中では麦に変わるような形で持っていかんば、ぜひ野菜づくりというものが大事じゃないかなと思っているわけです。そんな中に、このタマネギなり高菜等をつくった場合に、品目横断的な補助政策に乗れるか。また、価格安定対策の中でぜひやりたいということですけど、それがどういうふうな条件か、今わかればお聞きしたいんですけど。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

野菜の生産でございます。特に、お尋ねはタマネギと高菜の関係でございますけれども、野菜生産につきましては、野菜価格の低落時の経営支援として、野菜価格安定制度というのがございます。対象品目としては、一定規模を持つ産地である必要がありますけれども、タマネギは対象となっておりますが、高菜は対象外ということになっております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

次に、山すその農業を考えた場合に、山つきの雑木林、山をどういうふうに手入れをするかというものが今大きな問題になってきているわけです。今度の台風でも大きな木が根元から倒れたり、竹が変な色になって枯れたり、また、山の広葉樹林の葉っぱがいろいろ変色しながら、おかしい冬の山の色を見せているわけです。

そんな中で、私は以前、山というものは五、六十年に一度切って、再生産することにより、上と下との、地上部、地下部のバランスがとれてこそ、山の木であり、保水力のある木になると思っているわけです。その点を、その辺を整備すれば、今、問題になっているイノシシあたりも少なくなるんじゃないかと思っているわけです。だから、私はぜひ、この山すそを、一定の距離を持って、100メートル幾らなりを何年に一度か、すばっと切ったら、その分が水害なりいろんな対策にもなるし、また、そこにあるいろんな農業品が、自然物が金になるんじゃないかなと思っているわけです。その点の対策というものも、今からの中山間地域での、山すそでの農業の大事な対策と思うわけです。その点、今、そう考えた場合は、チップとしての利用があるわけですが、市内にチップを切るような業者の林業屋さんはいくらぐらいおられ、またそのチップの利用に対する持ち込みの単価あたりがわかればお聞きしたいんですけど。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

市内のチップ用材の取扱業者でございますが、市内で1件でございます。

それから、チップの持ち込み等の単価等につきましてはですが、森林組合の方にお尋ねをいたしたわけでございますけれども、雑木材の費用、これは伐採の費用でございますが、10アール当たり100千円でございます。それから、チップ材の売却の収入でございますが、1ト

ン当たり約3,500円というふう聞いております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、この業者が1件というものは、伐採している業者が1件ということですか。それともチップの持ち込みの業者さんですか。

それと、雑木林を10アール当たり100千円というものは、100千円で切ってもらおうということですかね。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

市内のチップ用材取扱業者といいますのは、雑木を切って、広葉樹等を切ってチップにするという業者でございます。

それから、雑木材の費用でございますが、これは広葉樹林等の雑木を切って持ち出すという作業でございます、それが10アール当たり100千円ということでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、雑木林を切ってチップに出したっちゃ、全然合わんということですね。私はこれができたら、もっと山間部の農業者の収益増になるんじゃないかなと考えたんですが、甘かったですね。それがまた自然環境の保全なり、保水力の保全につながるんじゃないかなと思ったわけです。

このまま山をほうっておいたら、大きな木がそのうちに一緒になって倒れて、それが保水力の低下したところから鉄砲水となり、その鉄砲水が濁流、土石流となって災害につながるというようなことを思ったわけです。それを防止するためにも、ぜひ私は、山の雑木というものは五、六十年間隔ぐらいで切ったら、山が再生されていいんじゃないかなということを感じたわけです。それができないということは残念です。今のまま外国の自然をなぎ倒して、結局、世界の山なり用材を持ってきて、日本の木を使わないという厳しい現実が見えました。その点、どがんなりとも考えられんですね。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

森林保全については、私はこのように考えております。まず一つが、この森林保全という

のは、広い意味での商売にやっぱりつながらんわけですね。先ほど部長から答弁があったように、伐採するのとチップにして、こがん開きがあると。やっぱりこれは商売にならんと。したがって、森林保全是、私はこれは税金でやるべきだと思っています。森林税、これを目的税として、武雄だけとかじゃなくて、少なくとも、例えば、北部九州圏とか、あるいは佐賀県とか、そういう和歌山県のように 和歌山県かな。済みません、ちょっとそれはつまびらかじゃないですけども、税金として、それを私はやるべきだと。すなわち、その森林が持つ機能を考えた場合に、よか酸素ば供給したり、やっぱりそこでイノシシば食いとめたりしよんさあわけですね。だから、そういうことで、私はどちらかというぎんた、これをどう活用するかということも大事ですけども、税金の方のアプローチの方が私は現実的かなというふうに聞きながら思っておりました。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういうことで働きかけて、山間地域の雑木林を切って、環境整備に持ち込めるような形で運動してもらいたいと思います。

次に、イノシシ対策ですけど、イノシシの現状と今後の対策はどういうふうになっているか、お願いします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

イノシシの駆除の現状ということでございますけれども、イノシシの駆除につきましては、有害鳥獣駆除ということで、JAなど関係団体及び行政で武雄地区有害鳥獣広域駆除対策協議会を設置いたしておりまして、各団体の応分の負担と、それから県の補助により対策を講じております。

ことしのイノシシの駆除でございますが、7月1日から10月31日までの間に、佐賀県猟友会武雄支部の協力を得まして実施いたしました。その結果、1,419頭を捕獲いたしております。これは前年、746頭でございますが、ことしは昨年の1.9倍ということになっております。今後のイノシシの対策につきましても、猟友会等の協力を得まして、駆除に努めていきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

イノシシです。私は料理ばします。イノシシというぎ、もう迷惑千万は迷惑千万ばってん

が、各県別のデータが見れば、宮崎県とか鹿児島県、あるいは兵庫県、足りんらしかですね。宮崎、鹿児島は、何か聞くところによると、お節にイノシシの肉を出すとか、あるいは生ハムでそれが出たりとかですね。宮崎のある人に聞きました。一番おいしかイノシシはどこですかと。山内のイノシシが一番おいしか言いんさったですね。そういう意味で、私はイノシシは、これはひょっとするぎ活路のあるのかなと。

それともう一つが、兵庫県の丹波篠山のシシなべ、これだけで冬はかなり多くの観光客が訪れよるわけですね。各旅館はシシなべですね、ポタンなべ、それをどんどん出しよんさあわけですね。だから、そういうことで、イノシシはひょっとするぎんた、これは大化けする可能性の私はあるものだというふうに実は思っています。

そういう意味で、これをきちんと加工してできるところがないのかなと。それを目下、私は今、自分自身で調べよる最中です。ひょっとするぎんた、これは化けるかもしれんなど。猪突猛進はいけませんけれども、一つ、これは大きく考えていきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私もこの問題は次に考えていたわけです。このイノシシをどう食べるか、食わせるか。この処分というものが、今からの農業では大事な問題と思っているわけです。

先ほどの17番議員の中で、牛の狂牛病とか、いろいろ鳥インフルエンザ等の問題も、畜産農家を苦しめたり、またそれが助けたりするというふうな話があったわけです。今、イノシシは、どうしても山で、イノシシの一部だけを持ち込めば幾らかの金をもらえるということで、あとはそこで穴なりに埋めて処分するというような形ができています。そうした場合に、どうしてもこれが、鳥インフルエンザじゃありませんけど、いろんなウイルスが発生することにより、その地域の畜産というものが壊滅的になるおそれもあるわけです。恐ろしい生き物ということにもなるわけです。しかし、これを適正に処分して、適正に利用すれば、すばらしい宝の山になるということが、今の市長のアイデアの中に出てきたわけです。私の知り合いでも、薫製にして、生ハム的においしいものを食わせる人もあります。そんな彼らと、うまいとこ持って行って、ぜひおいしいイノシシ料理ができることを期待したいと思います。

それと同時に、山すその農村地帯では、いろんな農産物が最初できると言いました。そしてまた、ちっちゃな畑では、いろんな野菜、いろんなものができるわけです。武雄で今元気なばあちゃん、がばい元気なばあちゃんといえ、物産会館のばあちゃんたちです。物産会館なり、また山内の黒髪の里や北方の小さな農園という形で、福岡のスーパ―とも契約して、農産物を直売しているような中で頑張っておられます。そんな農産物を、いかにまと

めてPRするか。それも市長の仕事だと思っています。

前に、高木議員が言いましたように、福岡でアンテナショップ、その中に農産物の安定的な供給、また川登のサービスエリアに持って行って、そこにアンテナショップ的な方向と、いろんな道が農産物の中にも考えられるわけです。ぜひ武雄だけでできたものを、そういう形で販売できるようなシステムをつくれれば、農業も捨てたものじゃないと思っています。オーストラリアやよそから大量に来た米と、武雄でできたうまい米では、やっぱり武雄のうまい米が売れると思います。そのために、ぜひそういうふうな販売戦略というものは農業政策の大事な一片だと思っていますので、よろしくお願いします。それが、最初に言いました高齢者の医療費対策にもつながるんじゃないかなということを考えています。

それで、この高齢者の医療費対策の中で、最後になりますけど、交通安全運動のことです。

今、高齢者の交通事故というものは大いに叫ばれております。そんな中で交通事故を、いっちょ、ちょっと遭ったばかりに、一生病院のベッドの上で生活するというふうなこともあり得るわけです。それが、地域での医療費の増大につながるということもあるわけです。

また、それと同時にドライバーでもあります。高齢者のドライバーが危険なときもあるわけです。そんなことを考えたら、ぜひ高齢者の方のドライバーというものを大事にすることも、医療費増大を食いとめる道じゃないかと思っておるわけです。元気にお年寄りの皆様が運転して、孫たちを連れてドライブする。そしたら、そんな中には病院に行く暇なんかないわけです。いかにして私は、先ほどのグラウンドの問題、農業の問題、交通安全の中から、病院に行く暇がないようなお年寄りをつくるのが、我々、今財政が厳しい中でとり得る一つの道じゃないかなということを考えているわけです。その点、市長、交通安全対策に対する御提案などありましたら、お聞きしたいわけです。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

ちょうど1週間ぐらい前に、車ば運転していたところ、狭いところからいきなり、80代の男性だったと思います。ほとんど確認なしで、私の車の前に、ばって突っ込んできんさったですもんね。私このごろ思うのが、これはいいことだと思います。70代、80代の方々が軽トラとか軽に乗って、本当に元気に動かれています。そして、いろんなところに行かれています。これは非常にいいことだと思います。しかし、やっぱり、これは言い方悪いですけども、未確認とか不確認の方々がどうも多いような気がするわけです。

だから、そういう意味で、ドライブするのは安全、安心と楽しみというのを、1回、自分が不安に思う、あるいは年齢がある程度行った場合に、それをもう一回講習とか研修とか、そういう形というのは私必要じゃないかというふうに考えています。ただ、これは強制もできませんし、我々行政がどうこうという話じゃないですけども、私自身の経験でいったら、

やっぱり車はある意味では凶器になりますので、それが楽しさということにつながるような手だてを関係者の方々にはしていただきたいし、そういうメニューをつくっていただきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、私はこのような形で、なるべく高齢者の皆さんが病院に行かなくて元気に過ごすような環境というものの整備に、ぜひ努力してもらいたいということにつながってまいりました。

最後になりますけど、わかかもんプロジェクトの中でのグループ、三樹物語についてお尋ねします。

市長は、このわかかもんプロジェクトをどう育てていくつもりなのか、お尋ねします。わかかもんプロジェクトに対する市長の考えです。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今、わかかもんプロジェクトは大小ありますけれども、九つのプロジェクトチームがあります。それぞれが集まりやすいとき、活動をしやすいといったことでやられております。そういう意味で、私は今後、これらのチームが、また新たなものができるのは別にして、もう自律歩行していただくと。それと、できれば安定的にそういう活動を行ってもらうために、NPOになっていただければありがたいというふうに思っておりますし、そういう意味での支援をしていきたい。

もう一つが、よく言われるのが、わかかもんは、私は年齢に関係ありませんと。やる気があるのは、僕は年齢は関係ないと思っています。しかし、どうしても今、きのう構成員ば見よったら、若い人たちが多いというのは否めない状態だと思います。しかし、次に質問があるかもしれませんが、三樹参りをされているときに、私も参加しましたが、60代の方々も参加をされておって、こういう組み合わせというのもあるなど。だから、その舞台というか、そのおぜん立ては若くて時間がある人たちがやって、そこに世代を超えて、性別を超えて参加していただけるようなことになれば、武雄がまた一丸となって、いいまちになるのではないかなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今の三樹物語についてお尋ねするわけです。三樹とは、武雄の大楠の3本のことです。皆さんも御存じだと思います。

それで、私も何遍か行くわけですけど、参加するわけですけど、まず武雄の文化会館の横にもあります塚崎の大楠に行って、その後、武雄神社の大楠に行って、その後、武雄の温泉、そしてその後、若木の大楠と回るわけです。それが三樹物語としてやられているわけです。その施設には、武雄市内の方より、遠く京都や埼玉の方が、報道機関の報道を知って来ましたよということで来られるわけです。武雄の方は、あがんきつかとこれ、ということで、あんまり少ないわけですけど、よその方が見えますと、武雄小学校の横を歩いていると、あの小学校の校舎を見て、これは何ですかと。学校ですよと。こんなにすばらしい木がある大学がここにあるんですかということ京都の方が言われたことを覚えているわけです。僕らが何となく見ている武雄小学校の下から見る木というものは、大きな樹木の中にあるというものは、それだけよその人から見ればすばらしい、守っている学校というものは、こんなすばらしい学校があるんだなということと言われるわけです。それだけ自然というものは大事にしなくてはならないということ、私たちはよその方から学ぶわけです。

そんな中で、ぜひ私は塚崎ですかね、武雄文化会館の横にある大楠にしても、武雄神社の大楠にしても、竹やぶの中に生い茂ったり、民家の塀がむき出しで見えている中で見るわけです。これらに、ちょっと手を加えることにより、下の高校の横から見る、バイパス通りから塚崎の大楠というすばらしいものが見えるんじゃないかと思うわけです。そんな環境を守ること、そしてPRをして、これが一つの武雄の観光の目玉にもなるんじゃないかと思うわけです。ぜひそんな環境整備に力を入れてもらいたいと思います。

それと同時に看板です。私も塚崎の大楠あたりは、こがんとところにあるかというものを、私も50数年、武雄に住んでいて初めて見たわけです。何か一つ看板というものが、前、市長が言っておられたような、手づくりの木の看板、ぬくもりある看板というものができないかなと思うわけです。それをいろんなところに設置することによって、ああ、ここにあるんだなということがわかれば、もっと観光なり健康増進に三樹というものが、3本の大楠が生きるんじゃないかと思いますが、その点も含めて、この整備が検討されないか、お聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私はこの三樹は、武雄のみならず、日本の宝だというふうに思っています。3,000年、3本足すぎんた、もう1万年になりますもんね。そういう密集したところに、それだけの大樹があるというのはいないわけです。そういう意味で、私は大事にしたいと思います。

私も三樹参りに行って、一番がっくりきたところが、塚崎の大楠でいえば、ちょうど文化会館から上っていったときに、コンクリートの塀がむき出しですもんね。あれでどれだけ塚崎の大楠の借景じゃなかばってん、私は写真ば撮ります。撮れんわけですね。入ったときに、

やっぱり玄関と一緒に、あそこのコンクリートの塀というのが、やっぱりそれはそぐわないと思っていますので、これはできれば予算措置をして、れんが調なり、そういう木調なりということができないか、検討したいというふうに思っています。これはもう数百万円かかる話じゃないと思います。

それと、もう一つが武雄の大楠です。こう入っていったときに、私は茶畑があるのは否定はせんです。しかし、雑然としておるわけですね。これをどういうふうにするにいいか。土地所有者の方々とも協議が必要ですし、ちょっと今、答えは持ち合わせていませんけれども、あそこが、行くところがもう少し雑然としたものじゃなくて、茶畑は茶畑というふうにしちんとなっていれば、そこはあの辺、そが手ば加えんでもできるのかなというふうに思っています。

特に、三樹のうちのこの二つについては、私を中心として、1回プロジェクトチームでもつくって、三樹物語の皆さんとともに、1回打ち合わせというか、協議の場を持ちたいというふうに考えております。そこで、いろんなまた、こういったふうにした方がよかとか、こういうふうに持っていきましょうとかいうふうな話ができれば、私はありがたいというふうに思っています。それが、すなわち武雄の観光に直結する話だというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

これをもちまして、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

議長（杉原豊喜君）

以上で、9番山口良広議員の質問を終了させていただきます。

次に、26番川原議員の質問を許可します。御登壇を求めます。26番川原議員

26番（川原千秋君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、通告順に従い、3項目について質問をさせていただきます。

最初に、すべての人が生活しやすい地域社会を目指す、ユニバーサルデザインの推進についてお伺いし、次に、ほとんど活用されていない住民基本台帳カード、つまり住基カードでございますが、これの利活用について。そして最後に、地域の活性化に欠かせない、地域で催すイベントの必要性について質問をさせていただきます。

ではまず、ユニバーサルデザインの推進についてお伺いいたします。

御承知のように、ユニバーサルデザインとは、年齢や性別、文化や能力、また身体の状態など、人々が持つさまざまな個性や違いを超えて、一人一人が互いに多様性を認め合い、初めからだれもが公平、快適に利用できるというように、まちや建物、製品、環境、またサービスづくりを行っていかこうとする考え方のことを、ユニバーサルデザインと言われているわ

けてございます。

以前から、バリアフリーという言葉はよく耳にされておられたと思いますが、バリアフリーとユニバーサルデザインの違いは、バリアフリーは、障害のある人が社会生活をしていく上で障壁となるもの、つまりバリアとなるものを除去することで、もともとあったバリアを取り除くということですが、このユニバーサルデザインは、最初から障壁となるものは取り除かれているということで、つまりユニバーサルデザインはバリアフリーの考え方が発展した形となり、できるだけ多くの人々が利用できるようにデザインすることが基本的なコンセプトとされているところでございます。

近年、全国でも、このユニバーサルデザインの推進については、さまざまな取り組みがなされてきておりますし、本県におきましても2003年から導入がされ、2004年には公共施設UD取り組み方針、それと県有施設のUD標準仕様をまとめ、本年3月には佐賀UD推進指針が策定され、現在、普及に向けた取り組みが、いよいよ本格化してまいったところでございます。

そこで、お伺いいたしますのは、本市では、このユニバーサルデザインについて、現在どのような取り組みがなされているのか、お伺いをいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

ユニバーサルデザイン、私も最初に聞いたときは何のこっちゃと思いました。それで、早く適切な日本語の訳が出てこんかなと、まず期待をしております。それをちょっと置いておいて、ユニバーサルデザインは、基本的には私は、バリアフリーという言葉はハード、道路であったりとか、建物の段差であったりとか、そういう話だったと思います。何でここに来てユニバーサルデザインという言葉がわざわざ出てきたかということ、人の気持ちもユニバーサルデザインと言うですね。だから、だれでも受け入れやすいと。だから、観光地でいうぎ、そのもてなしのこんにちはとか、よう来んさったねというのも、広い意味でのユニバーサルデザインというふうに私は聞いております。

したがって、この広い意味でのハードからソフトに至るまでのユニバーサルデザインという考え方を、新総合計画を貫く柱として、私はぜひ入れてほしいというのを総合計画の審議会をお願いしたところであります。今後、その総合計画に、具体化するユニバーサルデザインに基づいて、各種の施策、各種の事業というのを総合的、一体的に組み立てていこうというふうに考えております。ただ、先ほど言ったように、ユニバーサルデザインは、まだ何のこっちゃという話があると思います。これは職員、市民の皆さんを含めて、何らかの形で研修の機会、あるいは講習の機会を持ちたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

26番（川原千秋君）〔登壇〕

今、市長がおっしゃるように、このユニバーサルデザインという認知度、これは佐賀県内、また本市におきましても、まだまだ低いのが現状だと私も認識をいたしております。だれもが地域で自分らしく安全に暮らせる住みよいまちや、安心して子供を産み育てることができ、ユニバーサル社会、これを実現するためには、すべての人の日常生活や社会生活などのすべての分野に、このユニバーサルデザインの考え方を浸透させ、そして、さまざまな場面で取り入れていくということが必要であろうかと思いますが、それで次の質問でございますが、平成20年の春にオープンが予定されております新武雄駅、これにもユニバーサルデザインをより多く取り入れていただきたいと思いますが、そのことと、またほかにも本市の今後の取り組みがございましたら、お示しをお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

新武雄駅については、本来、私が答えるかどうかというのはありますけれども、私が期成会から聞いている話、あるいは事務当局から聞いているお話を申し述べたいというふうに思っています。

まず、段差の低いスロープ、これは南口にしっかりつけていきたい、それも中央のところにつけていきたいというふうに考えております。それとともに、極力滑りにくい材質です。これについても、駅の外のところ、あるいは構内、そういった形で、滑りにくい素材を使わなければいけないというふうに思っておりますし、なおかつ黄色の導線ですね。導線をしっかりつけていく。そういったことで、やっぱり高齢者の方とか障害をお持ちの方々が負担に感ずることなく、新武雄駅ってよかねというふうに思ってもらえるような整備にすべきだと思いますし、私の方からも施工主のJRには、そういう観点から物を申し上げたいというふうに思っております。

さらには、ユニバーサルデザインといった場合には、その見た目です。先般、議会にも御報告をさせていただきましたとおり、期成会の一致の案で、本来、白っぽいのがれんが調になったと。これも、私はある意味でのユニバーサルデザイン、親しみやすいという意味でのユニバーサルデザインだというふうに考えております。

そういう意味で、幅の広かけん、どれをもってユニバーサルデザインにするかは別にして、親しみやすい、そしてストレス、負担を感じないような施設づくりをしていかなければいけないというふうに思っておりますし、今後、施設を整備する、具体的にはまだ持ち合わせておりませんが、それはきっちり守っていく話だと思いますし、ただ、難しかとは既存の施設です。これでユニバーサルデザインのとば入れるとなるぎんた、市役所の中に、例え

ば、エレベーターをつくったりとか、エスカレーターをつくったりとか、そういうふうな議論にどんどんなっていくわけですね。だから、私がちょっと頭ば抱えとるとは、既存の施設に、いかにユニバーサルデザインを、そのコストを抑えながら持っていくかと。これが知恵の絞りどころだと思っています。

それとあわせて、ぜひお願いしたいのは旅館です。あるいはホテルです。ユニバーサルデザインの部屋があるところ、段差がなかったりとか、お風呂に車いすでそのまま入っていけるようなところがあるところは、必ずはやっていますね。例えば、東京の京王プラザホテルとか、ユニバーサルデザインが最初は1個やったと。100何十室の中の1個やったけど、そこに予約が殺到したと。よくよく見れば、ビジネスマンの方がそこに泊まるわけですね。なぜかといえば、障害をお持ちの方、あるいは高齢者の方が、やっぱりここはよかねと言うところは、すべからく皆さんがよかと言うところなんですね。だから、京王プラザホテルはその部屋ばふやしたと。

だから、そういう意味で、これはちょっとうがった見方かもしれませんが、広く観光客を呼んでいただくために、そういう部屋を最初は一つか二つ、これは設備投資がかかります。ぜひお願いできればというふうに思っています。これは、お願いばかりで恐縮ですが、そういった施設をつけたところは、私を含めて積極的にPR、武雄にはこがん旅館がありますよといったところをPRということで、私はお手伝いをしていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

26番（川原千秋君）〔登壇〕

まさに、今市長がおっしゃったとおりでございます。私もそういうホテル、旅館、そういう関係にもぜひ取り組んでいただきたいという思いもございます。

先ほど、駅のことでも申しましたが、県のUDの推進指針の中に、まちづくりの分野の具体的な取り組み例として、新幹線開業に向けた駅舎及び駅周辺の整備という項目がございまして、県もモデル地区の整備に取り組むということじゃないかと、そういうふうに思いますが、この新武雄駅舎なり、その周辺の整備、県のユニバーサルデザインモデル地区として、そういう形での取り組みができないかと思うのですが、その点についていかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

お答え申し上げたいと思います。

今現在、JRの方といろんな面で協議をいたしております。これは、県を通じてでもございますけれども、その中で、今議員おっしゃるようなユニバーサルデザイン的なものを含め

て、できるだけそういったものになるようお願いをされていていてるところでございます。今後とも引き続き県、並びにJRの方と協議をしながらやっていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私、モデル地区の話は川原議員から初めて聞きました。ちょっと勉強不足だということは反省しております。我々には両県議がいらっしゃいますので、両県議の力をかりながら、県に力強く入れてくっしゃいということを私は知事に言いますし、力強く働きかけていこうかなど、間に合えばですね、そういうふうに考えております。ただ、やっぱり嬉野がちょっと先行しとるごたですね。やっぱり聞くわけですね。嬉野には負けたくないと思っております。

議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

26番（川原千秋君）〔登壇〕

本当に、これからの新しい武雄駅ができるわけでございますので、そこに十分ユニバーサルの考えを取り入れていただいて、この武雄市がユニバーサルについても先進の市だというような形で、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。そして県の方、きょう県議、お見えてございますが、県の方とも協議をしていただきたいと思います。

それから、その関連でございますが、先日、北方町の国道34号線沿いに飲食店が並ぶ、通称グルメロードと呼ばれるところで、北方の未来まちづくりのグループが、このユニバーサルデザインの導入を検討されている北方町の飲食店組合の御協力で、試験的に地元のお年寄りや障害者、それから介護者らで飲食店を訪問されて、何というですかね、食べたいときに食べられるかというようなことで調査をされたものでございますが、そのとき、バリアフリー的には、入り口のスロープとかはある程度完備がされていたと。しかしながら、障害者の方が実際座ってみられて、テーブルの高さとか、それから一番不安なトイレ、これがやっぱりユニバーサル用になっていませんので、その点がやはり今後の課題というふうなことでございました。ですから、そういったことで問題点がわかってきたわけでございますので、これから飲食店関係者も取り組まれていくと思います。

そしてもう一つは、北方のグルメ本、これは御存じですかね。これは、北方町の飲食店組合が取り組んできたわけでございますが、この本は、一押しメニューといって、各お店の一押しメニューが載っております。そしてあと、サービスの的には、これを持っていけば割引とか、粗品をいただけるとか、そういったサービスがあるわけでございます。

こういう形で、今、飲食店組合、取り組んでいらっしゃるわけでございます。グルメロードと福祉という、そういうテーマで取り組んでおられるところでございますが、そこでお伺

いしたいのは、このような気持ちで取り組んでいらっしゃるお店に何らかの御協力ができないかということで、私もいろいろ調べてみましたが、平成15年4月1日に改正ハートビル法というのが施行されまして、これは高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律ということで、支援措置として低利の融資制度や補助制度、こういうのが盛り込まれているわけですが、この対象になるのが、大きな病院とか、先ほどの旅館、ホテル、それからそういうデパートとか大型の建物ということになるわけですが、この飲食店みたいな個店には、このような制度が今のところございませんので、このユニバーサルデザインを取り入れた店づくりをして、そういう高齢者や障害者の方に来ていただきたい、車いすで気軽に来れるような店にしたいと思うには、どうしても改装が必要でございます。それにはまた資金も要るわけでございますので、そういったお店に対して、市として何らかの助成ができないか、その点についてお伺いをいたしたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

よその事例をちょっと調べてますが、よその県では、県レベルでそういう助成制度がございます。ただ、中身を見てみますと、例えば、先ほど言われましたように大型の公共施設とか、あるいは不特定多数の方が利用する施設とか、そういうたぐいの施設には助成制度があるようでございます。県の段階で、佐賀県レベルではまだそういう制度はないようですが、なかなか助成ということは難しいと思っておりますが、今、県の方でも、先ほどありましたように、ことしの3月に県のユニバーサルデザインの推進指針が出されまして、恐らく県内の市町村でも、その計画詰めがされると思っております。そういう中で、県の制度ができれば、市としても考える必要があるんじゃないかというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

26番（川原千秋君）〔登壇〕

今後、ぜひそういう形に本当になればいいと思っております。ユニバーサル社会の実現に向けて、今後の課題として、前向きに御検討をしていただきたいというふうに思っております。

では、次の質問に移ります。

次は、住民基本台帳カードの利活用についてお伺いをいたします。

総務省は、住民基本台帳ネットワークシステム、第2次サービスの一つとして、2003年8月から、希望する人に対して市町村から住民基本台帳カード、つまり住基カードの交付が開始をされ、その活用として、一つは、住民基本台帳ネットワークの端末における本人確認への利用ということ。また、公的個人認証サービスにおける電子証明書等の格納媒体としての

利用。それから、市町村の条例に定めるところによる独自利用。つまり空き領域、これの活用ということでございます。それから、写真つき住基カードについては、身分証明書として利用が可能ということで交付をされているわけでございますが、まず交付状況についてお伺いをいたしますが、全国ではどれくらい交付されているのか。また、佐賀県ではどうなのか。そして、本市では何枚くらい現在交付をされているのか、お尋ねをいたしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

藤崎市民環境部長

藤崎市民環境部長〔登壇〕

お答えします。

現在の住民基本台帳カードの発行状況でございますが、平成18年3月末で、全国で91万4,755枚で、全人口に占める割合は0.72%でございます。佐賀県では5,338枚で、全人口に占める割合は0.61%となっております。武雄市では、平成18年11月30日現在で245枚となっております。人口に占める割合は0.46%となっております。

議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

26番（川原千秋君）〔登壇〕

この住基カード、2003年8月から交付が開始されましたが、3年ちょっと、もう過ぎているということでございますけど、全国的に見てもなかなか普及が進んでいない。佐賀県でも一緒でございます。また、本市によりましては、もう人口比0.46%ですか。ということで、本当にこの活用という部分から考えると、ほとんどされていないような状況でございます。

市長は今後、この住基カード活用の拡大を図っていかれるお考えがどうなのか、その点についてお伺いしたいと思います。活用について。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の出身は総務省であります。一番ひどい政策がこれだったというふうには、私自身、本当に悲しく思っております。人口比で1%切るといのは、もう惨たんたるありさまで、これはどがん頑張っても、やっぱりちょっと私無理だと思います。私も、実は利用の拡大というのは、前職の大阪府の高槻時代も考えておったです。しかし、カードリーダーば入れるぎんた、1台10,000千円から20,000千円、またかかるわけですね。それで果たして住基カードがふえていくか。ふえんですね。そういう意味で、何だったんだろうと。私も住基カード、ちゃんと持っております。使いようのなかですね。

だから、今後、例えば、運転免許証を持たれない方の身分証明であったり、これは写真がありますので、そういったのをもっと広く使えるような、証明書の発行のときにですね。今

は、パスポートはこれを使えんらしかですね、住基カードは。だから、そういうふうに公的な部門で、こういったことが身分証明書に使えるような方法。そして、民間の部門で、これが身分証明書で使えるような、その拡大を図るべきではないかなというふうに歯切れ悪く思っております。

議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

26番（川原千秋君）〔登壇〕

総務省の方も、あの手この手で、こういういろんなパンフレットとかつくったり、武雄市の市報ですか、それにも住基カードをつくりませんかとか、そういうコマーシャル的なことはされているわけですが、今市長がおっしゃるように、これは本当に何になるのかなという感じですね。私もそう思うわけですが、何ですかね。いろんな、例えば、自動交付機というのも、おっしゃったように物すごく金がかかるわけでしょう。そういうものなかなかできない。私は最初これを質問するとき、なぜ質問したかというのは、その空きスペースですね。これを利用して、多目的に使えるような、例えば、図書館で使えるとか、病院で使えるとか、身分証明書はもちろんですけど、そういったものに使えないかなということで、まず質問を考えたわけですね。でも、今市長がおっしゃるように、1台設置するのに数千万円とか、そのシステムといいますかね、それを使えるようにするにはかかるということでございましたので、これは本当になかなか利用価値がないというのが実感でございます。

それで、もう本当に、そうなれば何とも言いようがございませんが、もう一つ、その大もととなります住基ネット、これもいろいろ各地で差しとめの訴訟とかあっているわけですが、大阪高裁では、住基ネットは制度上の欠陥からプライバシー権を侵害し、憲法違反という判決が出たとか、また大阪の箕面市ですね。そこでは、もう最高裁に上告しないという決断をしたというようなことですが、この住基ネットはそういうプライバシー権を侵すのか、侵さないのか。これは参考のためでございますが、その点について市長、どのようにお考えか、お伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

住基ネットの4要素というのは、たしか氏名と性別と住所、年齢でしたっけ、四つ。（「生年月日」と呼ぶ者あり）生年月日、4要素、これは果たしてプライバシーと言えるでしょうか。例えば、ここに自分はこういう人生を送ってきたとか、あるいはこういう職業についているとか、これはある意味ではプライバシーかもしれません。しかし、この4要素が、私はそもそも高裁の判決は間違っていると思っています、大阪高裁の判決は。そういう意味

では、私は名古屋高裁の、これはプライバシー権に当たらず、プライバシーの漏えいには当たらないという判決を支持しておりますし、なぜ大阪府でこがん問題になるとかですね。吹田とか箕面とか、私にはさっぱりわかりません。

議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

26番（川原千秋君）〔登壇〕

本当に、そのあたりが大変デリケートな部分だと思います。侵害になるのか、ならないのかというのはですね。今後も総務省としてもいろいろ御検討されると思いますが、私きょう新聞を見ていたら、そういうことが書いてあったわけですね、佐賀新聞の論説の方で。結局、これに書いてあることは、このシステムが安全に運用されているかを再チェックし、住民の不安を取り除いてほしいということでございますが、今の状況で、総務省もいろいろこう、何ですかね、そういう偽造されない使い方とか、いろんなことで保護的な対策をされていると思いますけど、まだいろんな対策ができるのかどうか。その点どうお思いでしょうか。今いろいろ対策がされていますよね、住基ネットに対して。

〔市長「情報漏えいとか」〕

ええ、そうそう。それに対して、まだできるのか、できないのか。済みません、その点をお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私が知る限り、平成14年の8月からシステムが稼働して、そのシステムの枠内で情報漏えいをしたというのは聞き及んでおりません。また仮に、もともと住基カードと云ったら、そもそも4要素プラス7要素、11要素ぐらいあって、それが何かいろんな反対とか、いろんな議論で4要素まで絞り込まれたということを知っていますので、仮に漏えいがあったとしてもという言い方はしたくありませんけれども、そういう意味での心配は私はしておりません。

議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

26番（川原千秋君）〔登壇〕

よくわかりました。では、次の質問に移らせていただきます。

次は、地域で催すイベントの必要性について、お伺いをいたしたいと思います。

前回の9月議会の一般質問で、合併前より1市2町で催されていた地域イベントの継続についてということで御質問させていただきましたが、北方、山内で合併する前から開催されておりました産業祭り、これについてお伺いをしたわけでございます。

先月の11日、12日に、がばい武雄の物産まつりが北方町で開催されました。そして、18日、

19日は山内町。そして、今月の2日、3日、これは武雄会場ということで開催をされたわけでございます。

昨日の一般質問の御答弁の中で、市長より、今回の物産まつりの来場者数などの御報告をいただいたわけですが、私も今回、それぞれの会場を見て回りましたが、それぞれ地域の特色を持ったイベントが展開され、北方会場では、北方中学校のプラスバンドの演奏や幼稚園、保育園の園児の遊戯。また、昔から継承されてきた浮立。そして、毎回大好評の野菜のたたき売りとかですね。そして、最後はお楽しみ抽せん会。こういったことをやりまして、多くの来場者を楽しませてきたわけですが、このようなイベントは地域だからできることでもございますし、地域の商工会やJAの皆さんの御協力、そしてまた各種団体、そういう方々の御協力をいただいて長年やってきたわけでございます。

また、それは1年に1度と。地域の皆さんに楽しんでもらいたいという、そういった思いでこれまで開催されてきたのだと思うのでありますが、規模は小さくても、会場に歩いていける、自転車で行けるぐらいのところで開催をするということが、地域のコミュニティの醸成にもつながっていくのではないかとこのように思うところでございます。

今回、いろんな方から御意見を伺いましたら、1年に1度のお祭りだから、ぜひ今後もこの地域で開催してほしいとか、また毎年、この会場で多くの地域の人と会えるのが楽しみだとか、お年寄りや子供さんたちも会場が遠くなったら行けなくなるとか、そして地域の活性化のためにも、ぜひ地元で開催をしてほしいと、そういった意見が多く見られたわけでございます。市長も今回、三つの会場を回られたと思いますが、回られてどのようにお感じになられたのか、御感想をお聞かせいただければと思いますが、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

三つの会場を回りました。どれも雨が降って寒かったです。そういう意味で、本当に果たして物産まつりを、さきの答弁でも言いましたけれども、この時期に開催するのが、11月の終わりから12月に、まとめて3回開催するとがよいかどがんかというのは、再考の余地はあると思いますね。だから、例えば、私は無理に、何が何でも一本化という考えは今持ち合わせておりません。

私はまず、さきの答弁で答えましたとおり、それぞれの物産まつりの実行委員会があります。そこがどういうふうにとしを総括して、どういうふうにしていくか。そして、三つの実行委員会の方々が一回集まって、今後、オール武雄としてどういうふうにしていくか、まずその議論をしていただきたいというふうに思っています。その上で、一本化の方がよかたいということであれば、私はそれを支援しますし、やっぱり今までどおり三つの方がいいということであれば、私はそう無理強いする気はありません。

その上で、再々になりますけれども、時期の問題です。ちょっともう寒かときに、やっぱり高齢者の方が来られて見て、震えよんさつとば見ながら、だご汁ば飲みよんさつとば見るぎんた、私も忍びなかったです。がばい絶叫大会ばしても響かんわけですね。もう寒々と、こがんとんさっけんですね。だから、そういう意味で、開催の時期を実行委員会の方々に、そこはやっぱり考えてほしいと思いますし、できればゴールデンウイーク前後。やっぱりゴールデンウイーク前後になったら、有田で陶器市があります、いろんなイベントがあります。だから、例えば、陶器市に行った50万人から60万人の方々が、こっちに来てくんさあごとなりはせんかなということで考えたりとか、あるいは夏場、どこも祭りがなかとにししてみようかとか、がばい暑か夏祭りでもよかと思います。そういう意味で、まず時期と、もう一つは、武雄は流鏝馬とか、いろんな全国に誇るお祭りが別途あります。それと時期を一緒にするとか、そういうふうな時期をちょっと、外から集めてもらう、あるいは市内の人が行きやすかように考えていただければ、まずありがたいなというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

26番（川原千秋君）〔登壇〕

先日、この祭りを支えていただいている北方の実行委員会の反省会があったそうでございます。その中では、やっぱり補助金的な主張はやめざるを得ないだろうと。しかしながら、今後もぜひ続けていきたいと。やっぱり地域の皆さんの楽しみだからというような意見が多かったというふうに聞いております。そういうことで、今後も、先ほどおっしゃいましたように、合同の会議もあると思いますので、そういった中での御意見を聞いていただいたり、また地域住民の意見等もぜひ聞いていただいて、それからまた御検討をいただきたいなというふうに思っているところでございます。

なかなか財政的な部分で、よくないのは十分私も承知いたしておりますけど、このような地域の祭りは、ぜひ継続していくことで、地域の連帯感や活力を生むということではないでしょうか。ぜひ地域住民の自主性を尊重していただいて、そういうことをお願いいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で26番川原議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 15時53分